戰鬪雜誌

進め

Fighting Magazine
Su Su Me.
No. 3. vol. 1
Apl. 1923

一部十錢

第一巻第三號內容

ある青年に答ふ……山川均
權力と暴力（卷頭）……北原龍雄
反動運動に對する所信……運動家・思想家四十餘名
社會運動に投ずる迄……山岸久雄
法律の逆用……布施辰治
プロレタリア政治運動の研究……佐野學・岡陽之助・淺沼稻次郎・稻村隆一・島中雄三・伊井敬・浦田武雄・糸川二一郎
二つの革命運動……赤松克麿
水平社第二回大會……高橋貞樹
運動の經驗と思ひ出……西尾末廣・加藤一夫・北原龍雄
メーデー運動を組織化せよ……同人
軍隊で暴れた話……福田狂二

編輯 北原龍雄　發行 福田狂二

第一巻第三號 大正十二年四月號 每月一回一日發行

東京市外大井町鈴ケ森刑場跡 進め社

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

戰はんとする地方の諸君に

地方にて、思想運動や農民運動に從事してゐる諸君の中に社會主義の基礎智識や運動の原理などを研究する爲め、暫く東京で暮したいと考へらるゝ人が多いであらう。

その諸君に、進め社は力を貸したいと思ふ。

今考へてゐる大體の方法は、約三四ヶ月間簡粗なる住居と食事とを提供する事（旅費はなるべく自辨して貰ひたい）。その間、讀書、討論、坐談、調査、諸運動の見學、諸集會への出席、講演の傍聽などに依つて、研究と修練とに全力を注ぐ事（必要な道案内は私等が務める）。

革命運動には、智識的なる蠻骨氣分も必要である。幸に東京にはゴロツキの腕力團體もある事なれば、それ等に對抗して戰鬪精神を養ふ機會も得られやう。

たゞ、進め社現在の能力は、一時に十人位しかお招き出來ぬ。順次入り代つて來て貰ふ他は無い。希望の諸君と數度の手紙交換に依つて相談を決定したい。時には粥をすゝつて餓を凌ぐ位の元氣と、眞摯なる運動の熱情とを自信する諸君は、進め社竹非虎四郎宛親展書で申し込んで下さい。

地方支局の希望者に

全國各地に、本誌の支局を置きたい。雜誌の販賣と廣告募集とに依つて一縣二三人位は食へやうと思ふ。それで食ひながら、白熱的な社會運動に從事せうと考へる人がないであらうか。それが私等の望む理想的候補者である。進め社安達謙吉宛申し込みを乞ふ。

（前衛・社會主義研究・無産階級）三誌合同

赤旗

◇ブルジョアのソヴィエット（時評）……鶴見宗治
◇恐嚇時代……山川均
◇資本主義社會の搾取關係……北原龍雄
◇無産者革命と民族問題……高橋貞樹
◇社會革命と土地所有權……佐野學
◇朝鮮解放問題と無産階級……社會運動鬪士卅氏
◇朝鮮に於ける治者と被治者……高津正道

四月號　定價四十錢郵税一錢　半年二圓・一年四圓
東京京橋日吉町八　振替東京五四七七　赤旗社

◇日本政界の現在及び未來……堺利彦
◇現在日本の經濟的地位……高橋龜吉
◇農民運動の飛躍的發展……赤松克麿
◇第二回全國水平社大會記……海門寺五郎
◇共産黨インタナショナル大會……西雅雄
◇赤色組合同盟大會……ロゾフスキー
◇インタナショナル・ノート……市川正一

農民運動

——四月號内容——

普選と無産階級
◆農會で政治的對抗
日本農民組合大會
◆水平社に學べ（時評）
水平社大會
◆此の手枷せ足枷せ
◆農民カリニン
愛國心の廉賣
◆信州の青年運動
◆地方通信、其他

——一部十錢・一年一圓二十錢——

東京市外戸塚源兵衛　農民運動社　振替東京五八一二四

大衆は進む

大衆は進む。歡びながら進む。悲しみながら進む。歡ぶのは將來の明るさを望むからだ。悲むのは現在の暗さに惱むからだ。大衆は進む。その前面に、廣い世界が開かれやうとしてゐる。

大正十二年四月　戰鬪・進め・雜誌　第一卷第三號

權力と暴力

權力と暴力とは、人間物理力の形態を異にしたる現はれである。物理力が組織せられて發動すれば權力となり、組織を伴はずして發動すれば暴力となる。物理力の發動が、一定の規範を伴ひ、それを社會成員が積極的に或は消極的に肯定する時、物理力の組織は成り立つのである。隨つて組織せられたる物理力は、常に一定の形式を以つて保持せらるゝ。即ちかの法律が、發動の規範であつて、警察とか軍隊とか言ふものが保持の形式である。それに反して組織せられざる物理力は、自由自在に流動し奔逸する。たゞ、外部からは組織化せる物理力の壓力が加えらるゝと、內部からは大衆自身の內省が働くとに依りて、常には靜かなる潜伏の狀態を呈してゐる。

一つの社會に於ける最高の物理力は、成員大多數の個人的物理力の、綜合せられたるものに他ならぬ。人間の物理力が、自己擁護の器具である事は、生物學的現象であつて今更論證を要しない。それだのに、若し或る社會の權力が、多數成員の欲望に反して居たらどうか。成員の物理力は、その本來の意義に反し、却つて成員個々の敵となつてその頭上に落下する。

社會に階級の對立が存在し、兩階級の利害は必然相反する時、若し權力が一方の階級意志に依つてのみ驅使せらるゝならば、他の一階級に取つて、權力は自己の欲望と絕對に背馳する。即ち、權力は、その階級の敵となる。

人が、自己の物理力を自己の頭上に振ふ事は、個人的には絕對にあり得ない。併しながらそれは社會的には常に行はるゝ。蓋し社會には一種の魔力があつて、物理力が社會化した場合には、もうそれを支持する個人の意志から獨立せしめ個人を壓迫する威力を備えしめて來るからである。

されど、人間の思索力は、かゝる權力への迎合を永續せしめない。それから來る反抗精神の熱度が一定程度に達する時、彼は、自己の爲めに振はるべき自己の物理力の本來の使命を考へる。その時に發動する物理力は勿論無組織である。即ち暴力なる惡名を負はされなければならぬ。

權力に對する暴力の對抗、それは組織ある物理力と組織なき物理力との對抗である。かくて、力は二つに分かれるが、その實質上の支持者は社會の大衆を措いて他にない。即ち、此の對立は、異る二物体の對立ではなくて、一物体の二つの面の對立である。

此の場合、權力は大衆の欲望から遊離して空間に浮動し、暴力は大衆の欲望に密着して大地を占有する。戰の結果は絕對に明かである。（北原龍雄）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

メーデーの運動を全國的に組織化せよ

一

メーデーは近づいた。

メーデーの運動を、最も有力に發展せしむる爲めに、運動が全國的に組織化せられる事を提唱したい。

無産階級の一切の運動に取つて、組織は實に生命である。一つの工場の運動にも、一つの村落の運動にも、それ〴〵の組織が無くてはならぬ。組織の有ると無いとに依つて、運動の力は非常なる差異を生じ、組織の優れて居ると居ないとに依つて、運動の効果程度は決定せられる。それはもう、言ふまでもなく明かな事だ。

全國に渉つて起り、全國の無産階級の、最も大きな仕事であるメーデーに、組織が無くてはならない事は、誰だつて無論肯定するであらう。

東京のメーデー、大阪のメーデー、北海道のメーデー、九州のメーデー、それ等が皆んな、銘々勝手に行はれないやうに、農村のメーデー、工場のメーデー、思想團體のメーデー、××のメーデー、それ等が皆んな別々に行はれないやうに、全國のメーデーが組織せられ、一つの有機體の如き、緊密なる脈絡の下に行はるゝならば、そこには新しき別個の大きな力が湧き出づるのであらう。

二

メーデーは、一つの地方や一つの團體の問題ではなく、全プロレタリア階級の問題である。

メーデーの眞實の目標は、個々の要求を遂行する事ではなくて、全プロレタリア階級の、永久に解放される事である。

故に、メーデーは、全プロレタリアの一元的結合に依つて行はれなければならぬ。メーデーの前に結合し得ず、組織され得ずとすれば、プロレタリア階級の全國的結合は、永久に不可能であらう。

人と人との結合は、共通したる欲望の前にのみ可能である。プロレタリア階級には、資本主義の搾取より解放せられんとする欲望が、共通して抱かれてゐる。

メーデーは、此の欲望が、眼前に躍動して迫つて來る時である。此の時こそ、全プロレタリアの結合が行はるゝ最好の機會でなければならぬ。かゝる機會にこそ、結合への流れが、急激の躍進を起さなければならぬ。

メーデー號

メーデー號(五月號)は四月二十日に繰り上げる。定價は十錢だが、組合や團體などからの多數の注文に對しては、増刷の實費以下にまで割引します。至急に申込んで下さい。

三

如上の主張の實現手段として、私はメーデー委員會とでも名づくべき機關を作る事を考へる。それは、すべての勞働團體、思想團體より委員を送つて作るのである。

委員會の役目は、全國のメーデーを組織化する事の他に、一般大衆に向つて、メーデーの意味を宣傳する事、新しき地方にメーデーを起す事など、澤山あるであらう。

宣傳に依つて、大衆の中から多くの參加者を吸收し得ると共に、階級鬪爭の意識が熱を帶びて皷吹せらるゝを得る。

今まで運動が起らず、今年も起る事が豫期せられず、而も起る可能性の充分含まれた地方は鮮くない。委員會はそれ等の地方に、人を送るか、地方の同志に具體的の方法を示すかに依つて、新しくメーデーを起す事は、そんなに困難な仕事ではない。

それが幾つか幾十かの地方に成功するならば、メーデーの運動は、非常なる躍進を遂げると共に、無産階級の全陣營は一段の緊張を加ふる事となるであらう。

而も之等の仕事は、メーデーの全國的組織化と相待つて、始めて行はれ得る事である。

四

メーデーの含む、偉大なる使命は、政治運動の機運の勃興に依つて、今年益々重くならうとしてゐる。それを遂行する第一歩として、我々は先づ、メーデーが全國的に組織せらるゝ事を熱望する。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時評

同人

政治と物理力

修羅場と言ふ古い形容語を、此の頃の新聞ではメッタに見ない。タマに見れば、それは必ず議會の記事である。『顎ヒゲを引つ掴んで投げ倒した』だの、『我れ勝ちに打つ踏む蹴る毆る』だの『頭の上を踏み越えて飛び上つた』だの、『盃を取つて毆つた』だの、『叫喚の聲肉と肉と相搏つ音と共に凄じく』だのと、如何にも景氣のいゝ事だ。

我々は議會なんて、自分等に取つて全く何の交渉もないものだと思つて居たのに、『政治に取つて物理力は非常に重要なものだ』と言ふ事を、實例まで入れて說明してくれる、有難いものだと此の頃氣が付いた。

國家の苦笑

バクチ打ち、ヨロケ人足、食詰め辯護士、落伍社會主義、それ等の小器用な奴等が、何かやらふと言ふと、型に嵌つたやうに國家を持ち出す。

資本主義國家が如何に詰らんものかは知らんけれど、選りに選つて、こう言ふ手合ひにのみ擔がれるとは氣の毒な話だ。

人の居ない所で、ソッと國家は苦笑してゐないか。

學者の養豚心理

佐伯博士と言へば、營養研究の第一人者だ、こう言ふ學者は如何なる社會にも大切な人である所が、その博士が、先日兒童の營養改善を主張した時の言ひ草を聞けば『富國强兵の實を擧げん爲めには、兒童の營養を重要視せよ』だつて。

それは明かに牧場の親父が、いゝ肉を得たさに豚のエサを吟味するのと同じ心理だ。あの人の善さそうな學者にまで、養豚心理を抱かしめるとは、さても資本主義社會は 禍 なるかな。

好敵手武藤山治

私は平素武藤山治の名に注意して居る。彼は資本家として階級鬪爭を意識して居るらしい男だからだ。大抵の資本家が國家の强大な力に依賴し、無產階級との戰線に自分が立つやうな、聰明と勇氣とを缺いてゐる。その中に武藤山治や死んだ早川千吉郎などは聊か群を拔いて居た。

その武藤が今度、政黨を作製すると云ふ。次の總選擧には、生粹の資本家を引き具して現はれる事であらう。

敵は愈々陣營を固め始めた。無產階級ももうグズ〱はして居れぬ。

華族はどうする

族稱廢止を主張する者が現はれた。頗る結構な事だと思つたら、何の事だ、華族はそのまゝにして置くんだそうだ。

暴利取締だと言つて、小賣商人だけを壓迫し、大資本家の大暴利には、指をさす事も爲し得ないと言ふ、寺内内閣以來の茶番劇の前を張らうとの了簡ならそれもいゝだらう。

金族はどうする

所が、華族よりももつと害惡の大きい族が居る。それは金族だ。又の名を資本家と言ふ。

族稱廢止論の横田千之助と言へば、金族政黨の首領株だと聞いてゐる。此の金族の手先きが華族拔きの族稱廢止をやりだすなんて、酒樽から首を出して禁酒宣傳をやるやうな話だ。何れにしても、金族の世の中、資本主義の社會なればこそである。

報告一つ

大和の水平社が、無賴漢に對する憤起を聞いて、我々は心から嬉しく思ふた。此の眞情を表示する爲め、社會主義者の間から、見舞金を募つて送る事にした。

思ひ立つたのが三月十九日の夜、直ちに遠近郵便で依賴狀を出しておいて、翌二十日全員出動して金を集め、翌二十一日の朝、川西村下永水平社本部に宛て、電報爲替で百圓を送金した。見舞金の醵出者左の如し。

- 中曾根源和
- 岡千代彦
- 岩崎善右衛門
- 小牧近江
- 島中雄三
- 堺利彦
- 佐野學
- 宮崎龍介
- 谷川守邦
- 高津正道
- 山川均
- 藤森成吉
- 新井格
- 前田河廣一郎
- 山崎今朝彌
- 凡人社
- 赤旗社
- 北星會
- 堺氏慰安會世話人
- 進め社

各人の醵出金額は關係者に報告した。何しろ、一日間だけの仕事だつたので、もつと廣く依賴する事の出來なかつたのは殘念であつた。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

或る青年に答ふ

山川　均

【一】

××日附の手紙は興味を以つて見ました。吾々の陣營に一人の戰友の加はつたことは、私の衷心からの喜びであります。

君の手紙には、私の雜誌によつて初めて社會主義者を理解したとある。しかし私の雜誌は、主として社會主義の理論方面の紹介に限られた雜誌であります。社會主義の運動は、學問ではなくて、戰爭であります。

よしマルクスの剩餘價値の學說は知らないでも、現に資本家の爲に搾取せられて居ることを知り、そして此の搾取の制度と鬪つてゐる勞働者は、總て社會主義者であります。よしリカルドとマルクスとの、地代學說の相異は知らないでも、現に地主に納めてゐる穀物は、悉く皆な自分の額の汗に實つた穀物だといふことを知り、そして此の不法な制度に對して鬪はうと決意した農民は、すべて社會主義者である。

勿論、社會主義の理論は、これ等の無意識の社會主義者を、意識した社會主義者にし、漠然と感じてゐたことを、はつきりと意識させ、唯だ戰はざるを得ないから戰つてゐた人々にも、何故に戰はねばならぬかと云ふ明白な理由を知らせ、その戰ひの理論的根據を與へ、その戰は必ず勝つといふ勝利の確信を抱かせ、そしてこの勝利によつて、吾々は何を得るのかといふ、戰ひの目標をはつきりと見させるものである。私は決して、社會主義の理論を輕んじない。否な社會主義の理論なしには、眞の社會主義者も社會主義運動もあり得ぬと云つてよい。けれども其れと同時に、社會主義の學理は充分に理解し、マルクスの『資本論』の何頁の何行目に、何と書いてあるかを記憶して居る人々のうちにも、斷じて社會主義者とは云はれぬ人のあることを忘れてはならぬ。

私の雜誌によつて、一人の社會主義者の出來たことは、私に取つては固より喜ぶ可きことであります。若し一人のほんとの社會主義者を造り得たとすれば、私があの雜誌に費やした多少の努力は、充分に報ひられたと云つてよい。けれどもそれと同時に、君が社會主義の『研究』によつて社會主義者となつたと聞いた時、私は多少の不安を感ぜざるを得ぬ。勿論私は、君の誠實を疑はぬ。けれども誠實な社會主義者は、自分は社會主義を知るだけの社會主義者であるか、それとも鬪ひの生活をして居る社會主義者であるかと云ふことを、常に反省しなければならぬと思ふ。

【二】

社會主義の運動とは、資本主義の社會組織と鬪ふことである。資本主義の經濟上の支配に對し、社會的の支配に對し、政治上の支配に對して、無產階級が鬪ふことである。この鬪ひを外にしては、社會主義の運動はない。またこの鬪ひをして居る人は、何をして居り、何處に住まつてゐても、既に社會主義の運動に携はつて居る人である。

君は舊るい今までの生活をぬぎ棄てゝ、之から社會主義運動の舞臺に躍り上がるのだと書いてゐる。私は大なる決意を以て新しい生活に入らうとする熱情に燃えた人の心持を解しないほどに、それほど冷やかではない積りである。私は固より、その心持ちに少しの僞りをも見出すことは出來ぬのです。けれども私は僞りのない社會主義者を欲すればこそ、之だけのことを云つておく責任がある。君が若し、文字通りに、社會主義運動の『舞臺』に立たうと思ふなら、其時君は、社會主義の『運動』から一歩踏み外づそうとして居るものである。社會主義運動は芝居ではないから、舞臺の上でやるものではない。若し社會主義運動に舞臺があるならば、苟も資本主義が支配してゐる生活は、すべて社會主義運動の舞臺である。

社會主義の運動は、鬪ひである。工場を支配してゐる資本主義と、工場に働いてゐる勞働者は鬪はねばならぬ。地主の土地を

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

耕やしてゐる百姓は、土地を支配してゐる資本主義と戰はねばならぬ。教場に立つ教師は、教育を支配してゐるブルジョアーの思想的支配と戰はねばならぬ。工場は戰場である。農場は戰場である。教場は戰場である。この戰場を去つて、特に社會主義運動といふ特別な『舞臺』に上ばらうとする人があるならば、私は其人は、却つて社會主義運動の戰線から逃走しようとする人だと思ふ。

なるほど今日以前の社會主義運動には、特に社會主義運動と名づける『舞臺』の上で、特に社會運動者と名づける人々のやつてゐるものでゝもあるかの如く見えた點があつたかも知らぬ。けれども時代は一變した。今日は『舞臺』に上つた者も、民衆の間に降りてゆく時である。『舞臺』の上で行はれた社會主義運動の試演は、無産階級の大衆によつて實演せられる時が來たのである。

【三】

君は社會主義によつて、今までの虐げられた生活が、つくづく厭やになつた、そして一日も早く社會運動に投じて意義ある生活が初めたいと云ふ。資本主義の社會生活がつく〴〵、いゝ、厭やなこと、そして一日も早く資本主義の鐵鎖を斷ち切つて、新しい社會を打建てようとする止みがたき要求、この强烈な要求があつてこそ、初て社會主義者があり、社會主義運動がある。

然しながら萬一にも、君は現在の虐げられたいやな生活から、社會運動といふいやな事のない特別の生活に入らうとするのなら、明かに君は誤つて居る。君の出發點は正しいかも知らぬけれども君の選んだ方向は誤つてゐる。君は社會主義運動に行かないで、新しい村に行く可きであつた。

私はも一度繰返して云ふ、そして之は何度繰返してもよいと思ふ——社會主義の運動とは、資本主義の支配と闘ふことである。して見れば、若し吾々に選擇の自由があるならば、資本主義の支配の最も甚だしい生活を選ぶべきである。資本主義の支配の最も露骨なところほど、激烈な戰闘の必要な戰線だからである。

君は現在、生活を棄てゝ、工場生活をすることをも、敢て辭せぬと云ふ。工場は近代的の資本家階級と、原本的の無産階級とが直接に相對峙してゐる所である。無産階級軍の中堅となり、前衛となるものは、大工業の勞働者でなければならぬ。そればかりでなく、無産階級によつて建設せられ、新社會の基礎となり鐵骨となるものは、是等の大工業である。そして此の大工業の生産機關を握つて居るところに、無産階級の强味がある。若し君の體力がそれを許るし、そして進んで工場勞働者になると云ふことなら、私は勿論衷心から贊成するものである。

けれども私の希望は、君がほんとに勞働者になることであつて、謂ゆる勞働生活を味ふことではない。勞働生活を味ふことは、一種の享樂であつて闘爭ではないからである。

之に反して、若し君がほんとに資本主義と闘はうとするならば、闘ふべき資本主義は到る處にある。君は、必ずしも敵を工場まで求めにゆく必要はない。今日の社會のうちには、如何なる所、如何なる生活も、資本主義の支配を受けて居らぬものはない。若し君が、勞働者になつた上で、初めてほんとに闘はうとするのなら、君は勞働者になつても、恐らくほんとに闘ふ機會はないだらう。

【四】

君の手紙のうちには、資本主義の支配に對する反抗の精神が張つてゐる。君は屢々、反逆の精神といふ言葉を使つて居る。

資本主義の支配に對する反逆の精神こそ、社會主義者の精神である。この精神なしには、社會主義者も社會主義の運動もある筈がない。

けれども資本主義の支配に對する反逆の精神に燃えて居るものが、必ずしも悉く社會主義者といふ譯ではない。有ゆる機會に、痛快を味ひ、溜飮を下げることによつて反逆の精神を滿足させて居る人は、革命運動をして居る人ではなくて、既に革命を味ひ、現に革命を樂み、革命を享樂して居る人である。

社會主義運動は社會的××を

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

目標とする運動である。社會的××を目標とする運動は、個人々々の反逆の精神を、その折々に小出しに費消して行つてはならぬ。社會主義の運動は、反逆の精神を一定の目的に蓄積し、組織し、集中することを必要とする。

最後に君は、社會主義者として自分は何をしたらよいかと云ふ質問を出して居る。

私は屡々、これと同じ質問を受けたことがある。社會主義の運動は、單に吾々の反逆の本能や革命の精神を滿足させる爲の運動ではない。若し社會主義の運動が、この種の溜飲を下げる運動、痛快を味ふ爲の運動なら、それは革命運動ではなくて革命の安全瓣を拵らへる運動である。吾々の運動は一定の目的のある、意識的の運動である。そこで吾々の運動には、何時でも、効果といふことを考へる必要がある。

して見れば、社會主義者としての行動を最も有効にする爲に君が「自分は何をしたらよからうか」といふ質問を起したのは尤もである。

然しながら若し君の質問の意味が、社會主義者としてどんな立派な事が出來るか、どんな大きな事が出來るかといふ、大きな事や立派な事を求める意味ならば、私は社會主義の運動には、君の求めるような大きな仕事や立派な仕事は無いと答へたい。無產階級の××運動たる社會主義運動そのものが大きなものであり、立派なものである。この運動全體を外にしては、一人々々のすること、又た爲し得ることは、悉く小さなことであり、普通の意味での詰らぬことであり、しばえのせぬ事である。社會主義の運動とは、多くの人々がするを欲しないような、小さなこと、しばえのせぬこと、隱くれたる努力に生涯を捧げて、コツ〳〵とやることである。

君は「何をしたらよいか」と云ふ。若し此の問が、爲すべきことが無いと云ふ意味なら、何をしてよいかゞ分らぬと云ふ意味なら、これは君がまだ、社會主義者として鬪つて居らぬ證據である。君が最も小いさな事でもして見たら、其次にやる可き事が、有り過ぎる程分つて來るに相違ない。そして私と同じように、唯だ爲すべき事が多くつて力の足らぬことのみを感じるに相違ない。

□豫告三ツ□

メーデー號の發行

五月號をメーデー號とし、メーデーに關する諸々の文章や繪畫を滿載し、メーデーの宣傳及その運動方法の研究に努力します。

法律逆用の研究

プロレタリアの合法運動は、法律の逆用でなければならぬ。その理論的及實際的研究を本號以後續けます。布施さんの今號の論文は、總論とも言ふべきもの、漸時各論に進んで行きます。

共產自治體の研究

今の日本にも、所々に小規模の共產制度が實在してゐる。そこには將來の共產社會の諸相が色々に暗示せられてゐる。それ等を順次研究して行きたい。次號には先づ、青森縣兇匱村を調査せる鈴木東藏氏の資料を載せます

□豫告三ツ□

そこで此の質問に答へるには私よりも君自身の方が適任である。先づ最も手近かな事をすることである。近くに工場があるなら、君は勞働者の間に、先づ一人の同志を造らねばならぬ。君が若しほんとに社會主義者なら、自分が愈々工場生活に入るまで待つてゐてはならぬ。若し小作人の組合があるなら有ゆる機會に組合を助けねばならぬ。君は何をおいても、青年團のうちに踏み止まつて、唯だの三人の青年でも、君の行動と思想とによつて、無產階級運動の味方としなければならぬ。君が若し非常な決意を以つて、勞働生活に入る時を待つて、それとも最も有効な仕事を見定めるのを待つて、初めて戰ひの火蓋を切らうとするならば、君は永久に、何にもせぬ社會主義者として終るだらう。

私は君から、新しい一人の同志を得た知らせを待つて居る。そして何をしたらよいかと云ふ質問の次に、今度は反對に、忙しくて困るといふ手紙の來るのを樂しんで居る。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

反動運動に對する所信

質問

反動運動は、今後尚ほ當分勢を得そうに思はれます。彼等の中には資本主義否定の思想を標榜するものもありますが、何れにしてもプロレタリア階級の革命的前進の途上に障害を投ずるものである事は言ふまでもありません。殊にその多くは、キタナイ腕を振り廻して暴力を看板にする奴等です。社會運動に關與する者は、是に對して如何なる態度を取るべきでせう。一切見て見ぬ振をするがいゝか、正面から應戰するがいゝか、それとも叙を大きく持つて利用の計を講ずるがいゝか、色々考へやうがあらふと思ひます。

之に對する貴方のお考をお聞かせ下さい。毎度の事ですが、どうぞ至急に。

□ 森崎源吉氏

反對運動の機能を發揮するものに二つの型がある。一つは過去數年來醜惡な暴威を逞うして來たゴロ〳〵暴力團で、これは社會主義者が空騷ぎをやつて居るうちに、戰爭で金儲けした資本家共が、その撥ち切れる樣な金力を以つて浮浪分子を抱き込み、之に舊思想の金看板を着せて警官と握手せしめたもの。他の一つは英氣溌溂たる急進社會主義者が個人的優越感から同志打ちをやり、運動の本流を握り損れたが原因で、それが思想上の動揺を來し、自己の政權慾のやり場がない所へ、外國に於ける反動團體の成功を見せつけられたから堪らない、早速之を日本に眞似て自分が革命の英雄にならうとして蹶起した所の新興反動團體だ。此奴は智慧があるし、自主的に行動するから無茶なことをせぬ代り、なか〳〵油斷のならぬ奴。前者が單なる暴力團ならば後者は立派な政黨だ。

之に對する對策は如何？兩者各その對策を異にする。前者は金力で懷柔するんでなければこちらの暴力で對抗するより外にない。而しこちらの暴力は無產階級の膨大なる組織の上に構成されなければならぬし、暴力を發動せしめる時は常に隱忍自重の上、正當防衛の形を取らなければならぬ。

先日京都に開かれた水平社の大會、山梨縣下で行はれた日本農民組合の演說會等いくらでもその實例はある。

後者に對しては明確な具體的意見は申し兼ねるが、中間階級を基礎とした社會主義的政策で、而も權力奪取の敵黨であることを忘れてはならぬ。その上で吾々が着々と機先を制して運動の歩を進め反對運動家をして一指だに染め能はしめぬことが肝要だ。日本の民衆は都會の勞働者と云はず農民と云はず、外國の民衆に比較するとき非常に聰明で理解力に富んで居る。故に堂々共產主義者が我が民衆の要求する最も適切明快な思想を宣傳する時斷じて反動思想に敗けるものでない。要は實力の涵養である。實力の前には反動も煽動もない。實力が無くては利用も應戰も出來ぬ。知らぬ振りさえもしては居れぬ。

□ 朱鐘建氏

反動運動は、その中でも最も注意を要する中產階級的の反動運動は、資本主義否定の標傍をする。しかしそれと云つてプロレタリアの勝利に反對する點に於ては、彼のブルジヨアの走狗連のそれと、何等違ふ所があるものでなく、彼等の看板は等しく『暴力』だ。而して力に對抗し得るものは力のみである。彼等を見て見ぬ振をするなんてもつての外だ。プロレタリアの爲すべきは、力の組織であらねばならぬ。伊太利のムツソリニ一派の運動に對する革命的プロレタリアの慘敗こそ、殷鑑遠からずではないか。

しかしプロレタリアの力の組織は『暴力』に對する正面對抗を以て目的としてはならない。それに備へることは只やむを得ないところより出る防衛策に過ぎないのだ。何故なれば反動なるものは、徹頭徹尾『反動』であつて、歴史的發展階段として何等の永續性を持つものでなく、又プロレタリアの目的は、モツト大きい、彼等の負へる歴史的使命を果すところにあるのだから。

『利用』と云ふことは、プロレタリアにあらゆるものに打ち勝つだけの準備がある場合に於てのみ問題となり、且つ可能である。

□ 桂信三氏

利用出來るのもあるし、又、全く敵に廻すのもありませう。しかし、例へそれが利用出來ても結局は利用だけの事で、一寸だけでも、信頼するやうな事があればおしまいです。どんな看板をかゝげてゐても、反動運動は反動運動にすぎないのです。

□ 布施辰治氏

反動運動が、いろんな形式で起つて來るのは止むを得ないプロレタリア運動途上の一障害だと思ひます。

或るものは、キタナイ腕を振り廻す暴行を以て、弱いプロレタリア階級の前進を脅かそうとし、或るものは、詭辯に巧みな資本主義否定の思想を標榜して、不徹底なプロレタリア階級の前進を迷はさうとし、又、或るものは、心からの社會改良に中腰のプロレタリア階級を墮落せしめようとして居るやうですが、夫れは眞にプロレタリアの階級意識に徹底した上の熱意に燃ゆるプロレタリアに取りては、豫ての覺悟で無ければなりません。

さうした反動運動がどんなに一時の勢ひ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

を得やうと、要するに、一時の反動現象であつて、軈てはウタカタの泡と消ゆべきものでありますから、私共は、それ等の反動運動に打つ突かつた時には、只だそれに打ち勝つ力強さの前進に、一般の勇を鼓するのみだと信じます。そして其の打ち勝つべき方法は、時に臨んで機略を個々の決すべきであつて、豫め正面からの應戰とか、利用とか云ふ樣な方法を定めて置く譯には行かないと思ひます。がしかし、眞に心して期すべきものは、嚴肅にして、且つ鋭敏なる運動者の階級精神に光あらしむべき信念だと考へます

□ 岩田榮吉氏

是等の運動に對しては見て見ぬ振りをして居ては何等得る處がありません。正面から只單に只先き計りの應戰も宜ろしくありません。私の考へは、結束して相當社會に認め得らる樣な團體を作つて、然る後如何なる强敵にも突進すると謂ふ行爲が、一番働きの有る事かと考へます。結束は吾々勞働者の生命で有り、賜で有り、財産である勇氣である。此三つの力を以て前進せんか、吾々の勝利は論ぜずして、得らるゝ事と考へます。

□ 堺利彥氏

彼等の勢力の發展次第に依つて、對策の講じ方が違つて來るだろう。
今のところ全く『見ぬ樣』といふわけにも行くまいが、マアじつと見てゐるといふ位だろう。

□ 羽生三七氏

『反動運動に對する我々の態度は斯くあらねばならぬ』と總括的に言ふことは困難かと存じます。何故なら種々なる反動團體は、單一の性質から成つてゐるものでなく、種々なる性質を具有してゐるからです。それ故、それに對する我々の態度も、それぞれ反動團體の性質が違ふが如く違ふと思ひます。

然し抽象的には、御質問の案書にある如く『氣を大きく持つて利用の計を講ずる』に越したことはありません。がそれを具體化する場合に、即ちその反動團體の性質が問題になつて來ると思ひます。

更に今一つ都會と地方、亦はA地方とB地方と云つた樣に、その地理的情況に依つてもそれぞれの相違があると思ひます。

何處の地でも軍人會が『赤化防止』の役割に忠實ですが、これは、古狸、幹部連中だ[illegible]く以外に大部分軍人自身が無産階級の立場にあること に依つて、方向轉換に幾分の希望がないこともないと思ひます。地方に於ては或る一つの社會問題を捕へた場合など、その希望なきにしもあらずですが、「赤化防止團」「國粹會」等の團體に對しては私は何等の用意もありません。

□ 岡陽之助氏

反動運動ぐらい、ブルジョアにとつて都合のいゝ武器はない。金看板を有し、而もカユキ所に手の届く點に至つては、その重寶なる事、軍隊、警察の比ではない。だから、ブルジョアの是れを愛護するは、高利貸の番犬におけるよりも甚だしい。彼等が愛國の題目を唱へ、警察の別働隊を以て任じ、光榮とし、安んじて暴力を揮ふは是がためである。

是に對して、皮肉冷笑をもつて默殺の態度で居る事は、只徒に、彼等の頑迷に信念を與へ、彼等をして益々図に乗らしめ、增長せしめる所以である。敵に、浮足、弱腰を見せるは、兵法の劣なるものである。何時でも正面から應戰し得る準備をして、寄らば斬らんの威を示すべきである。さりながら、一切の反動團體を向ふにまわし孤城を守つて神經をトガラせるのも亦愚である。宜しく大いに彼等と接觸すべきだ。全く覺醒せしめることは出來ぬにしても、懷柔利用は必ずしも絶望でないと私は信ずる。

□ 國領五一郎氏

無産階級は資本家階級の陣營に向つては、積極的に突撃を繼續すべきであり、反動軍に對しては彼等が挑戰して來る場合のみ應戰すべきである。換言すれば反動軍の爲めに、無産階級が資本主義制度の牙城に肉迫する事が防害され、爲めに一歩も前進する事の出來ぬ場合には、先づ彼等を擊退すべく全力を擧げねばならぬ。

次に、彼等が味方の陣營をカキ亂しに來る時、我等は如何して見て見ぬ振をしてゐる事が出來やう。若しも是れを見て見ぬ振をしてゐる事があるとすれば、それは無産階級の無氣力に依るか、或ひは彼等に屈伏した決果に外ならぬ。

彼等は無産階級の革命的前進の途上に障礙を投ずるものである、即ち敵である。けれ共純粹の資本主義者ではない。アワよくば資本家階級に代つて支配階級にならうと云ふ野心を持つてゐる。彼等が或事情の下に、一大勢力を得る事が出來たとすれば、やがては資本家階級に今日の如く從順ではなくなる。或ひはそれが爲めに反動軍が資本家階級と衝突するやうな事が全然ないとは斷言出來ぬ。そして斯うな場合には、否斯やうな場合のみ無産階級は反動運動を利用する事が出來るのである。

□ 浦田武雄氏

目下現はれてゐる反動的運動としては云ふに足らぬ。將來一勢力となりさうなのは愛國的社會主義一派であらうが、今の處十數名の者が暴力だなどゝ空氣焔をあげたつて問題でない。デモクラットの反動傾向は今の處見えぬが××の勢力は此の種の反動的素質を持つてゐる。之等の傾向に就いて注意すべき事は、それが立脚する團體の階級的性質である。

無産階級は、農民、在郷軍人團、消防組員、水平社、其他暴力的團體等を無産階級の戰線に引入れねばならぬ。追々自衞軍の組織も必要となるであらう。

白軍の反革命に對しては武裝した勞働階級の××に依つて鎭壓すればよい。

□ 片桐市藏氏

プロレタリアの、××的運動を妨げる樣な奴は、それがたとへ思想家であらうが、運動家であらうが、用捨はない。片つ端から、押潰し叩き壊して、進むより外途がないと思ふ。

□ 大村繁二氏

吾々の運動が盛んになるにつれて、反

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

革命的精神病者が次から次へと現はれて來る。そしてこの狂人共は、凡ての狂人がさうであるやうに兎角腕力を揮いたがる。しかし彼等の大部分はプロレタリアであり、從つて小數のブルジョア達のやうに、革命防止の切實な必要や、この點に對する明かな意識があつての事ではないのだ。人のよいこの狂人共は、今でこそブルジョアの手先きのお太鼓に踊らされてはゐるが、何時迄もさうしてゐるものとも思はれない。一番彼等の眼を醒してやつて大いに利用して行くといふことは面白いが、現在としてはそれも望み得まい。それかと云つて正面から應戰して行くのはあまりに大人氣のないことだ。一切見て見ぬ振りをしてゐるのが、一番賢い遣り方だろうと思ふ。その裡彼等が踊り疲れてヘタバルだろう。

□ 藤井眞澄氏

反動派にも色々とあらうが、本當にしつかりしたものには未だ見えないやうに思ふ。科學的に合理的に哲學的に確かりした基礎を有つた反動派なら、こつちも戰ひがあるといふものだ。が、今日のものは皆んな滑稽な感情的なものだけのやうだ。滑稽だと云つても、感情的であるだけあれでなかなか危險である。決して油斷はならない。かういふのは、むちやなのだから、眞正面から押して行つては大損だ。寧ろ利用するに如くはない。熱誠をこめて、その感情をこつちの感情と共鳴さすやうにするに限る。それはこつちの眞心にある。更らにまた反動派をもつて、こつち中に近頃澤山わいて來たにせプロ、にせ●●をやつゝけさすのもおもしろいと思ふ。

□ 江渡狄嶺氏

ホントーの革命は、ドーして出て來うか。それは又、それぞれの各々の考へがあると思ひます。然し、兎に角、『障害』と認むるものは、突破して行かなければなりますまい。それには、『力』が第一です。『利用』もいゝでせう。然し、社會運動が、一個のオルガニゼーションである以上、そのオルガニゼーションが第一です。ドンナ障害も、正しい人間の生命の生長を殺して仕舞ふ力はありません。力を養ひ、オルガニゼーションに、シッカと結束し、飽く迄も、生長を信じ、最後迄やり通すものゝ上に、最後の勝利があることだ、私は茲に斷言します。

□ 宮崎龍介氏

社會は必然的に進む。故に反動運動はその大波たると小波たると乃至は泡沫たるとを問はず、早晩消滅に歸す可き運命にある。而もそれは前途々上の障害となることもあれば、却つて反動の反動を呼んで逆に前途を助成して呉れる場合もある。從つて之に對してはいたく心惱を勞するには當るまい。然し若し前途に對して直接且つ重大な障害を齎した場合には、應戰し一掃するの必要がある。尚ほ場合に依つては之を走狗的に利用することも出來ます。これは聊か危險を伴ふのであるが、大局の上から云へば少しも差支へはない。反動運動者は多く事大的近視眼蔬ばらの集團であるから、その標榜する主義の如きは決して當てになるものではない。

□ 岡千代彦氏

毒を以つて毒を制し、暴を以つて暴に抗せねばならぬ場合は別物として、暴力を看板にする奴等は頭にプロの階級で、矢張りパンの爲めの手先に使はれて居る兄弟ですから、正面から應戰するも及ばぬと思ひます。

□ 荒畑寒村氏

吾々に、戰つて勝つだけの實力がなければ、知らん顔してゐるだけの話。しかし、腕で勝てないからと云つて、口に筆に彼等を非難攻擊する上に、毫も憚かる所はない。

敵はブチ倒すもので利用するものではない。自分に暴力を揮ふだけの勇氣も、責任感も、實力もないクセに、他を利用して暴力を揮はせんとする卑怯なる『利用論』者もあろうが、その根性のシミタレさ加減、寧ろ愍殺すべしだ。

□ 山崎今朝彌氏

出題の反動運動者の事なら、モップ氣違ひ暴行巡査に對すると同じがよいと思ふ。無抵抗主義は固より採らず、さりとて赤衛軍の編制も聊か仰山に過ぎる。コッチが勝てると見たらさいご、ウントやつて上手に逃げる。勿論逃げ後れる人や後の事も考へに入れる。負けると見たら鳩の如く羊の如く蛇の如く義士の如く執拗に柔順に少しでも得を取る。尤も此原則を適用した手段方法は、時と所、人とによつて色々に違つてくるだろふと思ふ。

□ 藤森成吉氏

或る場合には默殺するがよし、或る場合には眞正面から戰ふがよし、又時に臨んでは利用してやるのも面白いでせう。僕は、近頃の反動運動なぞ冷笑してゐます。

□ 井伏太郎氏

如何なる敵も、將來は結局吾等の味方になる筈ゆゑ、一日だけでも速く味方にする爲に、成る可く誘ひ導く様に努める。さう出來ないものには觸らずに置く。若し、暇があつたら、時に、逆襲して見るのも面白かろうと思ふ。タダ注意すべきは、淺薄な感情に囚れて、事をせぬことである。

□ 小牧近江氏

反動運動に對しては、當分其の運動分子の種類別をしていゝと思ふ。それによつて、對策が自ら異なる。應戰せぬ方がいゝ場合と、應戰することを忘れてはならぬ場合と。利用の計を講ずる場合と。しかし、その内全反動運動が組織的に統一せらるゝ時代が來るだろう。その時の對策を今から新たに準備して置かなければならない。その時は團結して正面から應戰しなければならぬことは無論のことだ。

□ 滿川龜太郎氏

敵を利用するのが兵家上乘の策です。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

め

み最新紀元を用ゆる貴社たるもの、奚んぞレーニン和尚の戰法を學ばざる可けんやです。

□ 島中雄三氏

反動運動を目的とする暴力團體に對しては、時宜により正面から應戰するもよし、柳に風と受け流して置くもいゝと思ふが、忘れてならないことは、かゝる運動に加はる者自身は、本當にプロレタリアの解放運動に投じて資本主義を敵とし戰はねばならない無産者であるといふことである。彼等の中には、ブルジョアの惡教化と惡宣傳とによつて誤られたる信條を堅く腦裏に植付けられたるものもあるが、又唯だ食ふために餘儀なくされてゐるものも甚だ多いと思ふ。彼等に反省を與へ、自覺を與へ、彼等を教化して其の蒙を啓き、その用ひんとする暴力を彼等の背後の勢力に向けしむるやう努力する熱心と忍耐と寛容とが吾々同志になくてはならない。

□ 前田河廣一郎氏

正義は唯一の武器であります。既に我々が、此の武器を有する以上、戰術は、その武器に應じ、敵の對抗に應じ、地位時機に適するの機智を持つて可なりと存じます。正義を以て武器とし、無産階級の後援隊をもたば、刹那々々の鬪爭は、自らその途が開けることかと考へられます。

□ 橋浦泰雄氏

蠅や虻だからと云つて馬鹿にはならぬ。時には容赦なく人命を左右し得る能力を持つてゐるから。と云つて劍を振り翳したり神經質に氣を尖らすにも及ぶまいが、常にそれ相當な驅除法だけは講じて置く必要がある。

□ 山本懸藏氏

反動運動と云ふ文字のあらはれが、すぐ障害と云ふ樣な言葉になる樣ですから勞働者の革命運動に障害になる樣な者は、あたまからメヽキつぶす必要がある樣です。

□ 鈴木楯夫氏

ブルジョア階級に從屬してプロレタリア階級の運動に防害を加へるプロレタリア階級中の馬鹿者を大別すると二つある。一は智識?を賣物にして居る所謂智識階級と稱する意氣地のない奴共、二は階級意識の無い人足共である。共に自分の屬する階級に弓を引く解らず屋で濟度し難い奴であるが、それでも、人足共は半可通の智識がないだけに教ゆると存外早く自己の立場を理解する。で、出來るだけ、注意して反省せしめたいと思ふ。それでも、頑迷で聞入れなければ、力を以てこれに對する迄だ。信念の下に動くのでないから案外弱いだろうと思ふ。伊太利に起つたあの反動時代が日本の將來に來るとも思へぬ。何故ならば、日本の國民性は伊太利人よりも忍耐力が弱いと思ふからだ。何れにしても、先つ教へ而して後ち叩きのめす事だ。

□ 湧島義博氏

彼等が暴力を揮へばふるふ程、一般民衆の心は我々の方へ傾くやうに思はれますが、と云つてゴロツキの無智粗暴を無視するわけには行きません。併し彼等に對抗すべき我々のパルチザンを編成することを必要だと思ひます。それにしても單に共産黨といふ如きものでなく、一般社會運動の全部を網羅すべき團結の組織化がなされない以上は、そのパルチザンも彼等反動運動者らを撃退することが困難でせう。だから、當分は我々も彼等のいちくするやうな振舞を忍び乍ら、我々の同志を統一することが肝要ではないかと思ひます。

□ 平林初之輔氏

反動運動に對しては今から十分の對策を考究して置く必要がある。反動勢力の運動にも色々の段階があるから、その場合によりて國家がこれを或る程度まで抑へてくれることもあり、ブルジョア自由主義者、小ブルジョア階級がやつきになつて騷いでくれることもある。無産階級に對して反動勢力が一つに集中されないうちは、そしてプロレタリヤが決勝力をもたぬ中は、出來るだけ反動と反動とを衝突させ相殺させるのがよろしいと思ふ。敵の勢力が集中されてしまへば戰法はかはつて來る。それまでにプロレタリアの勢力をも集中し戰列をとゝのへて置くのが肝腎である。

□ 栗原精氏

見て見ぬ振か、應戰か、利用かの一或は二三の戰術を採るの外あるまいと思はれます。東北の今猶封建的な地主小作の關係ある、官營思想、官營道德以外の持合せのない人達ばかりの農村に於ては、吾笛吹けども人踊らず、社會主義者共産主義と云へば、開闢以來の惡逆無道の人達と覺え込んで居る人間の間にあつては周圍の諸君の吹く笛に強いて調子を合せて、吾亦踊つて、潮合を見て敵は本能寺にありをやるより外なかろうと思ふて居ます。利用策を採ります。淋しい事です。もどかしい事です。

□ 新居格氏

見て見ぬ振をしていゝとは思ひませんが、さりとてハッキリした思想綱領のないものに正面から挑戰する必要もないと思ふ。吾々は只だ吾々の道を飽迄も緊張して白熱的に進前する事に努力すべきのみです。それに力點を置きたい。それに對して差當つて障害になるだけの點に於いて戰はねばならぬが、こつちの運動を手をぬいてそちらの事を考へるほど、そう重大視しやうと思ひません。

□ 西雅雄氏

反動運動團體が既に存在し、多少でも吾々の運動に對して妨害を試みつゝある以上、吾々は之を『見て見ぬ振』をする譯には行かない。毛を吹いて傷を求めるやうなことは、努めて避けねばならないが、吾々は常に形勢の觀察を怠らぬと共に、危急の場合に臨んで、決して彼等にヒケを取らないだけの準備をして置かなければならないと思ふ。

それと同時に反動團體の内容、醜態に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

就いては、出來るだけ一般社會に知らしめるやうに努めねばならない。

□ 今吉一雄氏

僕は彼等の行動に對し反對運動と言ふ尊稱を呈すのにはあまりに聰明である。盗賊に向つて窃盗運動家とは言ひ得まい如くに、吾等は彼等に運動家とは言ひ得ない。いやしくも運動と稱するものには左の條件が伴ふと思ふ。正義、組織的、積極的。而して今日この三者を具備せる運動は吾人同志の運動の外あり得ない。故に彼等の行動は目的に於て皆無、組織に於て絶無、而して總てに於て可能性がない。故に吾人は堂々たる組織の力を以て敢て彼等の行動を念頭に置く事なく積極的運動に努力す可きである。

□ 遠藤友四郎氏

日本における反動氣勢の如きは、其内に閉熄するものと考へる。賣られた喧嘩なら宜しく買ふべく、但し先方の思ふ壺に嵌まる場合は買ふべからず。利用の計を講ずるなど、言ふ可くして行ひ難し。

□ 谷口善太郎氏

資本主義が其内在する致命的矛盾に當面した現在、狼狽、焦慮の結果、革命的無産階級の本陣に對し、あらゆる手段を以て絶望的の挑戰をして來た。反動運動勃興の現象も確實に其の一と見る事が出來る。

我々無産階級は、解放運動の途上に於て、資本主義の一切の力を抗爭する、即ち、政治上の迫害を一蹴し、經濟上の暴虐を粉碎する爲めに戰つてゐる。況や、暴力を以て解放運動の前進を阻止せんとするこれら反動勢力に對しては極力抗爭し、我々の團結の威力を以て擊退粉碎するを期さなければならぬ。

□ 津田光造氏

プロレタリア階級の革命的前進の途上に障害を投ずる者を見て見ぬ振りをするのはいけない。敵の力を利用することが今の場に賢い方法であると思ひます。諸々障害の方向轉換です。若し正面から行かうとすれば、社會運動より勞働運動にならなければダメだと思ひます。そして勞働運動の行くならば、社會主義者は自ら勞働者の一人となり、勞働組合の組織の完備と訓練に努めるより外はないと思ひます。勞働組合さいシツカリすれば、反動運動何かあらんです。

□ 西村佐一郎氏

一、反動團體は其指導者が如何なる種類に屬するかを問はず、又如何な思想を宣明しやうと無産階級革命運動の有力なる攻擊力を有する障害物である。從つて資本主義制度の支持者であり且つ資本家どもに利用せらるゝ武器である。

二、故に如何なる場合たるを問はず吾々は彼等に對して絶對的反對に態度をとり彼等をして民衆の間に全然力を失はしめねばならぬ。

三、吾々は彼等を微力なものとして、殊こ日本のやうに變な偶像や變な宗教のある社會にては尚更である。

□ 大山郁夫氏

私達のやうに學窓に避難してゐるもの(その癖、あまり勉強もしないで)には、かういふ問題に一言する資格はありませんが、思ひ附きを言へば、かういふこともなりませうか。——

反動運動の手合ひを向ふに廻はして、こちらから戰ひを吹き掛ける計畫を立てる必要はないでせう。しかし、或る場合に彼等から襲擊を受けたら、應戰も已むを得ないでせう。兎に角、常にさうした場合を豫想して用意をしておくことは、必要だと思ひます。彼等を利用する工夫があれば、それが一番結構だと思ひますが、それには殊に、可能不可能の問題が先きに立つのではないでせうか。

□ 八木信一氏

正面から應戰するがいゝと思ひます。暴を制するに暴を以てしてはいけないといふやうな事は生氣の拔けた道學者のいふ事です。私はすべて言論で解決が出來ない場合は〇〇で解決するより外に策がないと思つてゐる一人です。

□ 服部濱次氏

昨年十月、反動軍佛教會館にて戰を挑む。ホル堂屏息して屍餅を突き、僅かにアナの一角應戰す。併かも敗軍の殿の花々しきが如し。今や敵は大擧して我に向ふ。我等の抱く可きはかの時に於けるアナの意氣也。

伊太利の赤軍は無力にして天下をムツソリーニに捧ぐ。我等の深く鑑みる所であらずや。故に即ち言ふ。『日本の社會黨團結せよ!。』

□ 高野武二氏

反動運動——特に暴力を看板とするものに對する我々の態度は、その時その場合の情勢如何によつて決すべきことであります。しかし、是非必要なことは、我々に何時でも應戰し得るだけの準備を有することです。

彼等にナメられる如きは、よし『革命的前進の途上に障害』を投じないまでも、餘り感心した話でもありますまい。そこで相手にとつて不足であるが、少くともナメられぬだけの準備を要すると思ひます。

□ 石橋市作氏

我々の運動の障害者と見て適當の〇〇を差し向けて暴力を粉碎しなければなりません。如何なれば彼等の背後には〇〇が付いて居るし、尚彼等の仲間には特殊の誓約の有るを利用して巧に煽動してゐる者もある。要するに暴力の禍を免るゝには、暴力對抗に限ります。

□ 高畠素之氏

政府や政黨が『プロレタリア階級の革命的前進の途上に障害を投ずる』法案でも出した時には、いつも『正面から應戰する』氣勢を示すくせに、政府や政黨の手先きと稱せられてゐる『反動運動』の場合に限つて『見て見ぬ振』と『利用の計』の餘裕を示すといふは、小キタナイ打算だ。そんな了見だからナメられるばかりだと云ふのだ。べらんめえ!

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

二種の革命行程

赤松克麿

一

本誌の前號の卷頭にある「光と熱の火焔」といふ題言の中に「日本には日本の社會的特質があり、それに準據する日本の特種的革命行程がなければならぬと、私等は信ずるものである」といふ言葉がある。僕も斯く信ずる一人である。尤も日本の社會的特質、日本の特種的革命行程といふ意味が、國粹會式の迷信的愛國主義から來たものでないことは勿論である。また此の意味は、英國は社會民主々義で行き、露西亞は共產主義で行く、といつたやうなマクドナルド派の解釋から來たものでもないと思ふ。それは共產主義革命が、世界の一切の資本主義沒落に就いての普遍的の鍵であるといふ前提の下に立つたものであるに相違ない。此の共通な前提に立つからといつて、各國の革命行程を漫然と一律に考へたら、それこそ飛んでもない間違ひである。各國には夫れ〴〵社會的特質があり、夫れ〴〵特種的革命行程がある。實際運動に從ふ我々に取つては、此の點に就いての考察は特に大切である。私は此の考察に資する一端としてウイリアム・ポールが露西亞革命と英國革命とを對照したのを茲に紹介しやうと思ふ。露西亞は既に革命を斷行して、無產階級國家の第一步を踏み出して居るが、資本主義の發達の程度の低い國であり、英國はまだ革命をしないが、資本主義の最も發達した國である。其他の諸國は大抵此の二國の中間に位し、或者は右に寄り、或者は左に寄つて居るに過ぎないのである。だから此の二國の革命行程の特種性を對照することは、我々日本の社會運動者に取つても稗益する處が多いと信ずる。以下彼の說の要領である。

二

歷史上に於て最も偉大な無產階級の事業である處のソビエット革命は、我々英國人に對しても多くの尊い敎訓を與へて吳れた。心ある者は何人も之れを看過することは出來ない。併しながら露西亞の社會革命と英國の社會革命との間には、注意すべき相違點がある。一九一七年の三月に露西亞の第一革命が起つた時、其の政治制度は頗る頹廢して居たから容易に破壞された。そして第一革命に依つて天下を取つたケレンスキーのブルヂョア的革命政府といへども、革命的情熱に燃えた大衆とは餘程距離があつた。農民は第一革命の時から土地を欲して居たが與へられない。餓えた產業勞働者はパンと職を與へられない。兵士等は第一革命の結果、平和が來るものと豫期したに拘らず、戰線から復員されない。此の時、共產黨は不平に滿ち〳〵た大衆の間に目覺しい活躍をした。大衆の最も痛切に要求する處のもの――土地、パン、平和――を三大標語に掲げた。そして農民、勞働者、兵士を共產黨の政策に引きつけた。そして社會革命は實現された。露西亞の第一革命は專制政治を破壞し、大地主の權力を減殺した。そしてブルヂョア階級の薄弱と無能力と政治的無經驗と勞働者農民兵士等の不平不滿とは、共產黨が舊制度の殘勢を破挫して、第二革命を成就するのに、頗る都合の良い條件であつた。

三

革命の行程には破壞と建設がある。露西亞は割合に容易に破壞的行程を經過した。その破壞的行程の進んだ露西亞の社會條件は、英國のそれよりは遙かに簡單であつた。茲に兩者の重要な相異點がある。處で露西亞は破壞行程は容易に成就しても、革命の建設行程に移るや、非常な困難に遭遇した。誰も知る通り、露西亞は無限の富源を有して、世界第一流の富國になる能力は持つて居るが、今の處決して產業的國家ではない。彼は農業國である。此の產業の發達の程度の低い露西亞が、歐洲大戰の始まつた一九一四年頃から一九一七年の第一革命に至る間に於て、次第に其の經濟狀態が惡化して行つたのである。機械、工場、其他の產業機關は農業と共に看却された。鐵道も多大の損害を蒙つた。專制政府の擁護

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

者等は其の没落に先立つて、其の殘存の產業機關の最も重要な部分に對して怠業を行ふた。そうして革命を不可能ならしめやうとした。之れと同じやうなことが、ソビエット革命の當初の重大時機に際して、ケレンスキー擁護派の資本家の手に依つて、大規模に行はれた。だから共產黨が一切の政治制度を打破して、政權を握り、新社會建設の革命的職分に取りかゝらうとした時、彼は今日まで破壞された全經濟組織の再建の事業に當面しなければならなかつたのである。

併し露西亞は直ちに平和狀態に入つて、全力を經濟的改革に注ぐ譯には行かなかつた。ソビエット革命の最初の頃からして、勞農共和國は封鎖された。そして彼は一方に於ては外國資本家の援助を受けた反動的陰謀や叛亂と戰ひ、他方に於ては全世界の帝國主義的列强の武力と戰はねばならなかつた。此の資本主義の攻擊に加へて、勞働黨や社會黨や勞働組合の裏切者共は、勞農政府に對して盛んに嘲罵を浴びせかけた。併し勞農露西亞は此の有らゆる困苦艱難に堪え忍んだ。恐らく勞農露西亞が此の數年間堪えて來た勞苦をどこの國の政府だつて半年間我慢出來ないであらう。露西亞は今着々建設の歩を進めつゝある。兎に角、露西亞革命は破壞行程が建設行程よりも遙かに簡單であり容易であつたことは明かである。

四

英國の革命は露西亞革命と反對に、破壞行程が非常に困難で建設行程が容易であることが想像し得らるゝ。英國は資本主義の高度に發達した國であつて、ブルヂョア階級の基礎が頗る强固である。資本家の利益は非常に力强い制度に依つて防備されて居て、とても議會を乘つ取つた位では之れを變革することは不可能である。英國の支配階級は其の政治的權力を自國の勞働者に對する搾取に依つて保つて居るばかりでなく、それは植民地及保護國に根柢を有する强い財政的支柱に依つて擁護されて居る。故に共產黨はどうしても一方に反帝國主義運動を行ひ、印度、埃及、愛蘭等の民族運動を援助し、國內の勞働者を奴隷化するが爲めに國外の勞働者を掠奪する金權政治に反對しなければならないのである。かくの如き英國の社會的特質に面して居る共產黨の破壞事業は、なか〳〵困難といはなければならぬ。勞働黨が議會で多數を占めた位で、とても此の社會的特質を一變することは出來ない。

併し英國を大本山とする資本主義も次第に行き詰りつゝあるは事實である。生產力及び生產技術が次第に資本主義に反逆しつゝある。あらゆる市場獲得の戰爭やあらゆる失業の暗雲は、生產と分配を社會的に管理しなければならない社會的運命の兆候である。英國共產黨の事業は困難ではあるが、必ず勝利の日が來ることは疑ない。しかして若し英國革命の破壞行程が成就すれば、その建設行程は露西亞よりも遙かに容易に進行するに相異ない。蓋し、資本主義が高度に發達して、並ぶものなき生產技術、數百萬の優秀なる熟練職工、大產業の集中組織を有するからである。

和田巖君の死

建設者同盟の同人で、農村運動の前衞に立つてゐた和田巖君は、二月十四日に死去した。病氣は腸チブスで、年は二十六であつた。

私等、今の進め社同人で、和田君をよく知る者はない。併し君の運動家としての働き振りは、期せずして聞く機會が多かつた。君の死んだ報に接して、今更の如く君の事が思ひ出される。建設者同盟から貰つて來た寫眞を、暫く編輯室の壁に掲げる事とした。

君は青森縣の人で、大正十一年早稻田を出た。學生時代から、種々の運動に參與して來たが、昨年の夏から日本農民組合關東同盟と、日本農民新聞を起した。此の一月岡山縣藤田農場の爭議應援に參加し、十數日間不眠不休の苦鬪を續け、一月十六日疲れ果てゝ歸京した時には、旣に病を得て居た。翌二月十四日遂に倒れた。病氣の近因が岡山での惡戰であるは言ふまでもない。全く君は戰に殉じたのである。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

法律の逆用

布施辰治

一

法律の逆用――夫れは極めて當然なことである、と云ふと、聊か不穏のやうであるが、民衆總意の自治自律を理想とする、政治的進化の過程から觀た現在の法文は、多く之を逆用するに非ざれば、眞の法律の精神を徹底する事が出來ない樣に思はれる。

民衆總意の自治自律を理想とする政治的進化の絶對境には、現在の樣な法律は存立しまい、之れ即ち、法の目的は法無きに期し、刑の目的は刑無きに期すと云ふ、法律哲理の存する所以であつて、現實の法文は、未だ眞の法律の精神を徹底して、人間惡や社會惡を洗脱し切らない社會進化過程の假階段であつて民衆總員の全幸福を大きい間接の理想として、小さい直接の目的を、比較的多數者の比較的幸福に置くのが、眞の法律の精神である。

そうした法律の精神が認めらるればこそ、今日の所謂法文にも微かながらの生命があるのであるが、萬一にも、比較的多數者の比較的幸福に其の目的を置く精神が認められないとしたら、今日の所謂法律は全然成り立たないのである。故に私共無産階級は、今日の法律は、民衆總意の自治自律を理想とする、政治的進化の絶對境から云へば、法の目的は法無きに期する無用の長物だけれども、比較的多數者の比較的幸福を目的とする點に於て、軈ては、民衆總員の全幸福に進む過程の假階段として、其の存在が認められて居るのである事を十二分に諒解する所に、――所謂法律の逆用論が出て來るのである。

斯うした見地から、現在の法律に就て立法の精神と、其の法文とを對比すると、總ての立法の精神は、比較的多數者の比較的幸福を目的として居るにも拘らず、其の法文は反對に比較的多數者の比較的幸福を、無視蹂躙して居る事を發見する、從つて立法の精神を强調する爲には、現實の法文解釋を逆用しなければ爲らない如うな必要があるのみである。

何故なら、惡法も、又惡法なりとする成法至上主義の執法官に依りて、現實の法律を擬せらるゝ法治國民の比較的多數者と云ふよりは、寧ろ最大多數の無産階級が、總ての立法の精神を汲む法律の運用を計る爲には、事實上、國民の比較的少數と云ふよりも、寧ろ、少數の特權階級を保護して居る法文を逆用する事の當然に勇敢ならざるを得ない、寧否ろ、法文解釋論者の所謂逆用は、立法の精神の逆用であつて、法文解釋論者の所謂正用は、却つて立法の精神の逆用であると云ふて宜ろしい、法律の逆用――必ずしも逆用にあらず、法律の正用――必ずしも正用にあらず、要は民衆總員の全幸福を目的とする會社的進化の假階段たる、比較的多數者の、比較的幸福を目的とする法律の逆用を期すれば可なりと信ずるか

エピソード二つ

□

中國の或小學校へ勤めてゐた時の事。

毎年春になると、男女共その學校の卒業生の半數位は、あまり遠くない神戸や大阪の商工業地へ吸收されるのでした。校庭の柳が芽ぐむ頃には、信玄袋や風呂敷包を背負つた若い娘達が、五人も六人もつれだつて、學校の前の街道を通るのが、毎日のやうに見られるのでした。

ある年の正月、その村の物持ちの一人である校長は、自分の家へ教員を招待して、小さい新年宴會を開きました。そしてその席には年末に大阪の紡績工場から歸つて來た、隣の貧しい家の娘が給仕に出ました。

小學校時代から顔形のきれいだつたその娘は、四五年間の都會生活で一層磨かれてゐました。言葉使ひや身の振舞ひも、年に似合はずませて居り、流行の端唄の二つ三つは唄ふことも出來ました。田舍酒の醉ひがまはるにつれて、このきれいな娘が宴會の中心となつたことは申すまでもありませぬ。若い教員はこの娘に八方から盃をさす、冗談を言ふ、五十を越した老教員までが娘の手を握るといふ亂痴氣騷ぎが演ぜられたのでした。

校長は何處からか三味線を出して來て、自らかき鳴らしました。隣の娘はそれに端唄を合せて唄ひました。

外では雪の降りしきる靜かな山村の夜は、次第に更けて行きました。

私はこの席にあつて、云ふに云はれぬ悲哀と憤りとを感じました。(西雅雄)

らである。
夫れにしても法律の逆用と云ふ事は、如何にも不穏の如うに聞ゆるであらうが、今日の立法は、表面立法の精神に順應した比較的多數者の比較的幸福を目的として居ると云ひながら、其の實、比較的多數どころか、寧ろ最大多數である無産階級の人格を無視し、無産階級の幸福を掠奪する爲めに拵へられた現實の法文は、全然立法の精神を裏切つて居る爲に、全法の精神から云へば現實の法文を逆用しなければ、眞に比較的多數の無産階級に、比較的幸福を招來する事が出來なく爲つて居る場合がある。

二

其處で、所謂法律の逆用論は表面、比較的多數者の比較的幸福を目的とする現在の立法が、何故に其の精神を現在の法文に徹底する事なくして、反對に裏切られて居るのであるかと云ふ、法治政治の魔術所たる立法府の立憲的立法と、專制的解決との關係を知らなければ爲らない。

政治的革命であつた明治維新は、秘密立法の專制政治を顚覆して、公開立法の立憲政治を樹立した爲に、特權少數者の政權運用、意の如くならざる無き事は、依然封建專制時代と同樣であつても、特權少數者の意の儘なる政權運用の筋書を公開しなければ爲らない事に爲つたのであるが、豫め政權運用の筋書を公開するとなれば、どんなに政權運用の意の儘に爲る特權少數者であつても、又、事實上どんなに我儘勝手な政治運用を敢てするものであつても、實際問題の起つた時にさへ、意の儘なる專制が行へれば宜ろしいのであるから、豫め意の儘なる專恣横暴の政權運用を敢てすると云ふ筋書である所の立法の精神にまで、專制政治の看板を維持する必要が無い、又左樣する事の甚だ不利益なる事位は、特權少數者に明かな處である。之れ彼等の立法の精神丈けは、何時も比較的多數者の比較的幸福を目的として、其の實彼等特權少數者の意の儘なる政權運用を敢てする事の出來る樣に法文を作つて置くのである。

が、しかしながら、比較的多數者の比較的幸福を目的とする立法の精神の手前、マサカに全然立法の精神を裏切る樣な法文を羅列する譯にも行かないので、所謂解釋專制の餘地を存する。

例の「何々する事を得」、「何々せざる事を得」、「何々と認定したる時は云々」、「何々に依りて認定す」、「正當の事由ある時は」、「害せられたる時は」、「侵したる時は」、「故意に何々したる時」、「過失ありたる時」と云ふ、現實の法文を拵て置いて、立法の精神の表看板は、比較的多數者の比較的幸福を目的とする法文解釋の裁量自由を、法治政治の魔術として「注意」、も皆共に無産階級の爲めと、特權階級の爲とに、其の解釋の二三を見る事に爲つて居る狀態なのであるから、私共無産階級は「得る」「得ない」も「認定する」も「認定しない」も「侵した」も「侵かさない」も「正當の事由ある」も「正當の事由無し」も「故意」も「無意」も「過失」も左樣した現實の法文解釋を逆にして、立法精神の表看板に添ふ、比較的多數者の比較的幸福を招來する事に勇敢であらねば爲らぬ。

□

此の間當地でS市にある山砲隊の小佐だつて言ふ人が來て講演した。何でも、『軍備縮少に對する地方人の誤解を釘す』とか言ふのであつたが、その中にこんな一節があつた。『日本中の社會主義者がいかに團結したとて、一個中隊もあれば一擊の下に撲滅することが出來る』んだつて。(仙臺、OM生)

□

父は僕が、後年に至つて、自分の老い衰えた胸に、悲しみの大鐵槌を下さうとは露思はなかつた。彼はその息子をどんなに熱愛した事か。彼の踏んだ險しい行路に於ての、彼の流した涙や、振ひ立つた勇氣で、直接或は間接にその子に關聯しないものは殆んど稀である。

親父の現世に於て持ち得た唯一の樂みは、僕と言ふ對象以外からは來なかつた。彼は彼の愛する唯一の對象の上に、其の力の及ぶ限りの丹精を傾け盡した。此の愛の爲めに拂はれた、彼の辛酸の程は並大抵ではない。

僕は親父のお陰で、ならぬ中から高等小學校だけは滿足に了へさせて貰つた。大正二年の春、海軍工廠の見習工になつた。引續き七年まで務めたが、七年の末高慢と我が儘とは、遂に僕をして工廠にケチを捲らしめた。親父は澄まぬ顏をしながら、別に何とも言ひはしなかつた。噫―父は僕に騙されてゐたのだ。少しばかり小間しやられてゐたので、親の欲目で何か一と廉の偉い者になるだろう位に樂しんで來たであらう。それが今の有樣は――。手紙の一節。(中川精泉)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級政治運動の研究(一)

政黨の構成と反普通選擧

佐野學

一　プロレタリア革命の根本目的は、社會の下部建築であるところの經濟組織を社會主義的に變革するに在る。現存の經濟組織は明白に政治的權力によりて支持せられてゐるから、プロレタリア革命が先づ政治的勢力の收奪を當面の目標に定めることは、マルクス以來、指摘せられてゐる通りである。此故にプロレタリアの政治運動なるものが大に意識化されてきた近時の形勢を以て甚だ慶賀すべきものであると考へる。

二　政治運動の具體的方法としては政黨を構成すべきであると考へる。近頃、政黨論も喧かましくなつてきたようである。如何なる具體的內容であるか、よく知らないが、とにかく結構である。政黨は階級的勢力の組織的な表現であると共に階級意識に徹底したものゝ集團である。また階級的利益のために戰ふ前衛隊でもある。ブルジョアの政黨はブルジョアの階級的利益のために戰ふ前衛隊であり、中間階級の政黨は中間階級の利益のために戰ふ前衛隊である。プロレタリアにも政黨がなければならぬ。なほ今後生まるべき日本のプロレタリアの政黨は勞働黨といふ名を付けずに社會黨といふ名をつけて貰ひ度いと思ふ。プロレタリアの階級的志向を代表するものは社會主義に外ならないから。

三　政黨が出來ても、普通選擧の促進運動は絕對に不可であると思ふ。私は鑛夫聯合會の機關紙に普選大害論といふのを書き、大分方々で不評を蒙つたが、ヤッパリそう信じてゐる。一九〇三年にロシヤの社會民主黨がボルシエヴイキとメンシエヴイキとに分裂した當時の事情を考へて貰ひ度いと思ふ。當時ボルシエヴイキは議會政策を否定して他の方面の革命的結束に急ぐべきを力說したのだそうだが、その當時のロシヤの社會組織と今日の某國の社會組織とが如何に共通してゐるかに氣が付いて貰ひ度い。

四　普選はブルジョア議會政治の最後の形態として必然に到來する。日本にも遠からず實現するであらう。此時、斥候隊として少數の人が乘り出して行くことを毫も否定しない。否、それを必要であると考へる。然し其人を必ずリープクネヒトたらしめねばならぬ。その爲めには、其人個人の資質よりも、後方の本隊が大切である。本隊がフラ〱してゐては、リープクネヒトは出まい。出ても働き甲斐がないので職業代議士に墮落するだらう。私は本隊の結束を何よりも大事と考へる。

政黨の機能と民衆の意志

岡陽之助

一

「政治運動」といふ事は曾て一も二もなく捨てられた所の古看板である。其間少くも數年の歲月は流れてゐるであらう。然るに、近頃再び無産階級の政治運動が、眞劍に革命運動を考慮する人々の間から高く叫ばれて來てゐる。旣に此の一事に見ても、それが曾て唱へられた樣な議會政策を指ざさずして、全く新しい意味を有つものである事は自ら明白である。而も此の全く新しい意味での政治運動がもはや時の餘りに切迫してゐるといふ事は、亦誰しもの思ひの一致する所であらう。私は此の新標語こ

そ、眞に打つべき所の敵の本陣を、はつきりと突きとめ得た事を物語るものであり、こゝにいよ〳〵私共の運動の白兵戰に入ることを思ふのである。

私共は既に、打つべき敵の本陣を、はつきりと突きとめ得た。即ちそれは、階級的支配力である。網の目の如く張り詰められてゐる政治的權力である。私共は如何にして是に對抗すべきか。思ふに全ては、彼我權力の鬪爭である。即ちブルジョア階級の既に有てる强制力を凌ぐの鬪爭力を、我プロレタリア階級の中より新しく創り出すの外はない。

謂ふ迄も無く、プロレタリアの鬪爭力の源は唯一、堅き階級的結成にある。乍併、こゝに私共はプロレタリア階級を構成する成員が、如何に其の地位境遇の錯綜してゐるかに思ひ至らねばならぬ。この事實は即ち、階級内に於いて當然に生ずる經濟的利害の差異若しくは衝突を意味し、意識の不統一を結果するのである。

だから、若し、意識を統一して階級的政治鬪爭へ引き上げないならば、たとへ職業的若しくは産業的に團結しても、それは全プロレタリアの結成にはならない。結成のない所に階級的鬪爭力の集中はあり得ない。分散した鬪爭力は、組織化し集中化せる敵の壓伏力の前に一溜りもない事は自明の理でなければならぬ。

私は此の意味で、即ちプロレタリアの鬪爭力を以つて、ブルジョアの强制力を破らんがために、別言せば無産階級の政治運動を効果あらしむるために、政黨樹立の必要を切に思ふのである。それならば無産階級の政黨とはどんなものか。これに就いては種々の意見がある事と思ふ。私は先づ、三月號の「前衞」に載つた荒畑さんの見解を拔いてみる。

『勞働黨の組織と云ふことは、最近大分世間の注意を惹く問題となつてゐるが、その名稱の如何に拘はらず、苟くも政黨である限り議會に勢力を有さなくては運動の意味をなさぬ。』と。併し、私はさうは考へない。何故ならば、極めて簡單に前置きをして置いたやうに、私どもの意味する政治運動は、階級的支配力に對抗するに階級的鬪爭力を以つてする運動であつて、彼の改良的立法を議會に提案するための議會主義ではない。更にまた政治運動の本流を必ず議會に置かねばならぬとも主張するのではない。從つて『議會に勢力を有さなくては運動の意味をなさない』とは私は考へない。

私は、我國では議會に我々の政黨が勢力を有つ事はあるまいと想像する。我國の革命的風雲――議會外の全大衆の間に漲るべき――は、普選實施によつて益々急を告げると想像する。

二

思ふに、無産階級の政黨は飽迄、無産階級の意志を代表する一大政治團體ではあるが、さて此處に當然考へねばならぬ事は、『無産階級の意志』の問題である。これは、ひいて黨の政綱如何を決定するのである。

『無産階級の意志』はこれを二種に分類する事が出來ると思ふ

その一は、無産階級の恐らく大多數の意志であらう。即ち投標函にも表はれたるが如き一般大衆の意志である。從つて比較的微温的であることを免がれない。

その二は、恐らく小數の意志であるが、これこそ、行爲に於いて最も大膽な、而も革命行程に對して最も透徹の洞察力を有する急進分子の意志である。歷史的必然性に立てるプロレタリアの意志といふべきであらう。

此の方面から政黨を見る時は、本體と要部から成ると云ふ事が出來ると思ふ。當然政黨は無産階級の大衆を廣く抱括したものであるから、生産的組合に屬する人々は勿論、消費者としてのプロレタリアをも含まねばならぬ。だから組合と政黨とは各機能を異にするといふだけで、兩者を構成する分子は全く同一人である。同一人が兩者のそれ〴〵の機能に從つて活躍するに止まるのだ。

從つてそれは對立ではなく互に支持し合ふべきものである。

更に政黨は××を度外視してはならない。

『白の××』の中に『赤の××』を作り、それを次第に擴大する事は、權力の内部よりの××であつて、他面、無産階級の鬪爭

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

力の増大である。新しい我々の政治運動の一方面は、當にこゝに集中さるべきである。

三

先に私は政黨の内容を本體と要部とに別けてみた。併し對立的に、別けらるべきものでなく本體は主體を含んだ總體であるのは勿論である。從つて黨と急進分子といつた方が妥當かも知れぬ。黨は階級内の不統一なる意識を統一し指導し更に黨内に引き込むための努力をせねばならぬ。それと同じく、急進分子(首腦)はまた黨内の意識を統一し指導し更に、引き入れて、精鋭なる急進分子を增すことに努むべきである。

されば黨の頭腦たり主體たる急進分子は、確然たる革命意識の上に立つて、而も、一般大衆の意志を看取し得るものでなくてはならぬ。假りに、私が分類して見た、第二(急進的)の意志にのみ心奪はれて、第一(大衆)の意志から孤立して、徒に急激な言行をのみ事としては政黨は意味をなさぬ。

それかと云つて、第一の意志に迎合して、第二の意志を殺すことは、改良主義への墮落であり、私どもの所謂政黨の自殺である。

内亂暴動の續發なしに、私共は革命を考へ得ない。とすれば、その口火がよし偶發事によつて切られたにしろ、その人心動搖の間に處して、舊政府の顚覆、新政府の確立の大事を敢行すべきは無産階級政黨でなければならぬ。而して黨の運命の懸つて、急進分子に在る。この明敏果敢の急進分子を、私は、今日無名のプロレタリアの中に期待する。

革命的議會行動と政黨

淺沼稻次郎

無産階級の解放運動が現代の階級政治——組織化された國家權力を以て資本家の搾取制度を維持せんとつとむる——を否定して勞働者獨裁の天下即勞働者の組織的權力の樹立につとむる意味の政治運動が起るは當然である。亦すべての經濟運動は究極に於て政治運動である、然して一切の革命運動は權力掌握の運動である故に、無産者階級解放の革命運動も政治的權力を對象させる運動でなければならぬ此の事も誰も肯定出來る議論であると思ふ。其處で無産者階級は普選を前にして、其取る可き手段の準備を如何にすべきかといふ事が必要である。ブルジョアジーの政治的權力が組織化されて居る以上、我々無産者階級も組織的集團の力を以て之に當らねばならぬ。吾々はソーシャルデモクラットの樣に議會政策を取る事、即ち議會を肯定して其の立法的手段によつて改造を期する事は、極力排斥せねばならぬ。それは政良主義への墮落であり、急進ブルジョージーへの降服であるから。然し議會がブルジョアジーの權力の集中な所である以上、議會政策そのものを否定してもそれを無視する理由には行かぬ。

そこで、議會に對して抗議しなければならない。それは、議會を否定した上に上つ政治的直接行動である。其行動も組織化された力を必要とする。日本の如き、資本主義が完全に發達しない國、即ち産業組織が一定しない國に於ては、總同盟罷業は不可能であり、勞働者と農民との兩者も、經濟運動に止まる時は衝突をまぬがれない。が政治的權力を對象とし、政治的行動に出づる場合は、一致して運動が出來、眞の大衆の運動となる事が出來る。此の點よりして組織化された無産階級を代表する政黨が必然的必要と考へられる。

普選施行後に於て、吾々無産階級に取つて行く可き態度は、議會内に入つて議會を其内部より××するといふ革命的議會行動と、一切投票しない事、即ち棄權運動との中の一つを選ばねばならぬ。然し棄權運動は困難であり、大衆は議會主義者の運中にまごはされ利用される憂ひが充分ある。

其處で結論として私は、無産階級の運動が大衆運動である以上、政黨を必要とし、其必然的結果として革命的議會行動を是認し、且それを實行せねばならぬと思ふ。たゞ、議會行動は、徹底して革命的であらねばならぬ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

政黨組織の絶對的必要

稲村隆一

一

無産階級の政治運動が必要であることは、一般の社會主義者（アナキストを除く）及び勞働者の間には最早議論の餘地はないと思ふ。

對露非干渉、失業防止、惡法案反對、之等の問題はすべて明かなる無産階級の政治運動である。かくの如く、唯無産階級の政治運動と云ふ漠然たる意味よりするならば、日本の無産階級の間には既に政治運動は存在してゐる。

然し乍ら我々は單に無産階級の政治運動が存在してゐると云ふ事だけで滿足していゝであらうか。

共産黨宣言にも言へる如く、我々の鬪爭は第一に政治的爭鬪でなければならぬ。我々の社會革命は先づ第一に政治的革命であらねばならぬ。而して政治的革命とは舊き政治形態の破壞であり政治上の權力を××することである。然らば我々の政治的爭鬪も、只漠然たる政治行動ではなく、政治的組織の威力を以て政權爭奪を目標とする、大衆運動でなければならない。

そこで、政治運動の形態と言ふ事が問題になつて來るが、それは如何なる性質のものであらうか。即ち暴力團であるか、政黨であるか、それとも他の何かであるか。

此の問題は、北原君が二月の『進め』の卷頭に論じたるが如く、この國の政治的、經濟的社會的の、諸條件を綜合、考察して決定すべきであるが、私は之等の條件を考究して、日本に於けるプロレタリアの政治行動は、どうしても政黨組織であると思ふ。

二

或人は云ふであらう。日本の勞働組合は革命的である。最早經濟運動の領域を越えて、政治運動に到達してゐる。故に、政黨組合の必要は無い。組合が革命的行動をすればよいのであると、併しながら、組合はその性質上、飽くまでも經濟運動である。それが資本主義を撤廢し、無産階級の政權を確立する力を有する時は、それは必然に組合の外に政黨を組織した時でなければならない。

山川均氏は本誌三月號に於て、經濟運動と政治運動とは對立するものではない。經濟運動でも政治行動たり得る。政治行動とは、罷工や、サボタージユなどの如き、經濟行動と對立したものでなく、その綜合であり、よく一段上にあるものであり、之を包括するものであると言はれた。我々の政治運動は、經濟運動に對抗するものではなく、經濟行動の結合であり、一段上にあるものであり、經濟運動を包括するものであればこそ、そのやうな機能を完全に含む可き集團、即ち政治團體――政黨――を組織しなければならぬ。それなくして、政治行動は、觀念の世界に屏息する。

故に吾人は、勞働組合――經濟的結合――と並行して、政黨――政治的結合――の必要を痛切に主張するものである。

三

プロレタリアーの政治革命を遂行に際し、組合を組織し得る勞働者のみが、革命の原動力となるものではない。却つて革命の原動力は意外の方面より勃發せぬとも限らぬ。すべての革命は、社會の或一角に大變動と大動搖あるを必須の條件とする。（米騷動の如きこの一例）。現にロシア革命に於ても、革命の原動力は、必ずしも純粹なプロレタリアのみではなかつた。農民も、街頭の市民も、浮浪者も、社會革命黨も、急進ブルジヨアであるがデフトも、共に革命の原動力であつた。（殊に××は革命の重要なる原動力であつた。）要するに、革命の原動力は何時でも勞働組合や、純無産階級にあると思つては大なる錯誤である。こゝに云ふ原動力とは導火線の事である。

又如何に政治革命の好機會が與へらるゝとも、農民、街頭のプロレタリア自由勞働者サラリーマン等が、ブルジヨア、もしくは反動主義者（國粹會の如きもの）に味方するならば、無産階級の政權掌握には大支障を來す。こゝに於てか、無産階級は政黨の組織に當つて、農民及び

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

その他の無産者を、出來るだけ自己の陣營に包括せねばならぬ。經濟上のみにては之等のものを一括出來ぬ。只政治的組織のみが之を可能ならしめる。

三

或人々は言ふであらう。無産階級が政黨を組織しては墮落すると。併しながら、それは歐米の事であつて、日本では趣を異にする。

日本の資本主義の發達狀態を一瞥するに、それは、明治維新後、短期間に急激なる發達を示してゐる。從つてその反映たる勞働運動も、社會主義運動も、急速な步調を以て發進して居る。徹底的な協調主義より成立した友愛會は、AFLの如きものにはならないで、現在の如く革命的になつた。日本の勞動運動はいつでも最も急進的な思想に走る必然の性質を帶びてゐる。故に日本に於て政黨生るゝとも、團體として墮落するの恐れ殆んどなく、墮落するものありとするも、それは少數な個人の事である。

西歐のプロレタリア政治運動が、多く議會政策に墮落したのを見て、之を直ちに日本に直譯しようとするのは、國情を無視した所の大きな誤解である。況んやボルシエヴキズム革命に依つて、人類は新しき政治運動の經驗を得てゐるのである。

四

又他の者は云ふ。日本に於けるプロレタリアの政黨組織はよい事であるが、勞働組合の勢力を政黨の方へ分散するが故に反對であると。

然し乍らプロレタリアが政權を奪取せんとする時、政黨が必須のものであるならば、如何なる犧牲を忍んでも組織すべきである。況んや吾人は政黨組織によつて、例へ一時的に組合の力を分散することあるも、永久に分散するものとは思はない。そればかりか、日本の勞働組合は、組合勞働者の局部的な諸關係より成立してゐる。

故に利害關係も一致せず、今日の如く小勢力分立の狀態にある。それがある政黨の下に統制さるゝ事となるならば、必ずや組合の全國的合同も可能であらう。然るに政黨組織よりも、組合の全國的合同を先づ試む可しとは、實に短見の至りではないか。

五

吾人は、日本に於ける政黨組織には最早議論の餘地なしと信ず。かの普選ボイコットの如き極端な反議會策を執る場合を、假に想像しても、ボイコット單に組合や個人がボイコットを宣傳しただけでは全く無力である。組合員以外のプロレタリアの大衆にも、小ブルジョア改良主義者に對するボイコットをなさしめ樣とするならば、一定の綱領と組織の下に一つの集團を作つてやらねばならぬ。即ち政黨を組織してボイコット運動をやらねばならぬ。

原則上より見れば政黨は、必ずしも議會行動のみを目標とするべきものではない。政黨が議會を利用するか否やは、その國の社會的諸條件、諸形勢に依つて決定せらるべきである。ブルジョア政治を否定しただけでプロレタリアは政權を獲得出來るか？

我々は進んで取らねばならぬ。それには政黨――プロレタリアの政治的團結――以外にないのである。

眞の政治運動の威力

プロレタリアの政治運動は、必然、プロレタリアの團結組織が政黨化されることによつて發展するものと僕は思ふ。

又た、必然そうとすれば、要するに他には道のない譯ケだから「如何なる形に依ることが最もいゝでせうか」と云ふ質問はこれによつて答へられた筈である。

伊井敬

僕は、プロレタリアの政治運動が、在來の勞働組合組織の下に遂行され得るものと信じてゐる人々のあるのを知つてゐる。しかしそう云ふ人は、政治運動なるものの意義を知らないのではないかと僕は思ふ。例へば、先き頃の『對露非干渉』運動や、今回の『過激法案反對運動』の成功を擧げて、勞働組合の自由

聯合の下に完全にプロレタリアの政治運動が行はれるではないかと云ふ人がある。

何にか政治問題が起るたびに、一月二月を委員會の構成に費用し、五人も六人も集まつて議論を練り、ドタバタしてのち漸く示威運動の一つもやると云ふやうな事が、プロレタリアの政治運動の『成功』であるならば、僕は變節して政治運動非認論者となる。『對露非干渉運動』や『過激法案反對運動』のやうなものが、プロレタリア政治運動の全てでもなければ、又たプロレタリア政治運動は一つ喧嘩の種を投げ込めば、すぐ内輪破れする程の組合聯合委員會のやうな片手間ものによつて完全に取扱はれ得るものでもない。

プロレタリアの政治運動なるものは、共通の利害關係と、共通の目標と、一定の綱領と、一定の法規と、確乎たる組織と、斷乎たる獨裁と、儼然たる訓練とを有つ一大プロレタリア政黨の下に始めて完全に行はれ得る

主經濟從政治

島中雄三

政治運動を言ひ、經濟運動を言ふ場合に、今尚ほ時代遲れの議會政策や、賃銀値上の組合運動に關して、彼れ是れ辯解がましい説明を必要としなければならないとすれば、ずゐぶん情ない話である。しかし少くとも、日本唯一(?)の戰鬪雜誌たる『進め』に於ては、もうそんな議論は必要でない筈だ。誤解するものをして誤解せしめよ。現實の問題は更に一歩を進めてゐる。吾々は、その進んだ見地から更に考究する所あらねばならぬ。

純理の上から言へば、私は、經濟行動を主、政治行動を從とするものである。此の立場を取り違へてはならないと考へるものである。勿論所有關係と支配關係とは、楯の兩面であつて、いづれを主、いづれを從とすべきではない。國家の權力は、生産機關を所有するブルジョア階級によつて支持せられて居ると同時に、ブルジョア階級の所有を可能ならしめて居るものは、國家の權力に外ならないからである。そこに密接な相聯關係がある。しかし強いて根本的の成立から主從の別を立てれば、經濟的關係が主であつて、權力的關係は從である。近世の國家は、ブルジョア經濟力の支持なくしては一日も存續することのできないものであるに比し、ブルジョアの所有はたとひ國家の權力がなくても、或る期間之を保つことが不可能ではない。殊に他の資本主義國の權力に依賴することの可能性が豫想さるゝ場合にあつては特に然うである。それ故に、プロレタリアの解放運動に於て、國家の權力を否定しようとする爲には、その權力を支持してゐるところのブルジョアの經濟力を打ち破ることが、主なる要件となつて來る。國家の權力を利用して、それによつて權力の活動範圍を縮めて行かうとする在來の政治運動は、目標は兎も角、結果に於て改良主義に墮せざるを得ない。ブルジョア國家の權力を否定するものは、ひとり、プロレタリアの權力である。プロレタリアの組織的勢力である。而もプロレタリアの權力は、未だ當然プロレタリアの經濟的實力によつて支持されなければならない。ブルジョア國家の權力がブルジョアの經濟力の反映であるやうに、プロレタリアの權力も亦プロレタリアの經濟力(即ち勞働力)の反映に外ならぬからである。

さればプロレタリアの運動は、原則上、主力を經濟運動に置かなければならない。經濟運動によつて、ブルジョアの經濟力に打擊を與へ、最早その經濟力を以て國家權力を維持するに耐へざるに及んで、プロレタリアの組織的勢力が取つて代るのである。露西亞の革命の成功は、ブルジョア國家の權力がそのまゝプロレタリアの手に引き渡されたのではない。外觀は兎も角、實質に於ては、大戰の結果ブルジョアの經濟力が、國家權力を支持することが出來ないまでに衰弱した際に、プロレタリアの經濟力を背景とした組織的勢力が、即ちプロレタリア國家の權力が、ブルジョア國家の

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

權力を打ち倒して之に代つたのである。即ち權力が權力を征服したのである。それは當然、プロレタリアの經濟力が、ブルジョアの經濟力に打ち勝つたことを意味する。

此の、プロレタリアの組織勢力を以てブルジョアの國家權力を打ち倒すことを、プロレタリアの政治行動と呼ぶのは、純理の上から見て正しい。けれども、それが成功するのはプロレタリアの經濟力が、ブルジョアの經濟力に打ち勝つた時であつて、むしろそれは、經濟行動の必然の結果であるといはなければならぬ。先づその經濟力を征服(少くとも或る程度までは)することなくしては)政治上の權力を奪取することは不可能であり、よし何等かの機會に於て行はれたとしても、それは唯、雁首が取り換へられたといふだけで、權力の實體は依然としてブルジョアの手に殘るのは必然である。されば此の意味での政治行動とは、經濟上に於ける階級鬪爭の戰線の擴大でも又延長でもなくして、唯經濟運動の必然的歸結であるに過ぎない。それは經濟界に於ける階級鬪爭の結果、プロレタリアの經濟力がブルジョアの經濟力を或る程度まで征服し、最早國家權力を維持するだけの經濟的實力が無いまでに衰弱した時に及んで、初めて行はるゝところの政治行動である。

しかしながら、實際問題として、今吾々の前に提供せられて居る政治行動とは、斯の如き經濟運動の論理的歸結としての權力活動ではないと考へる。プロレタリア權力の確立は、階級解放の手段として當然必要と思惟するものであるが、それは啻に經濟運動の論理的歸結であるのみならず、またその目標でもある。故に、プロレタリアの政治行動を以て、ブルジョア權力の根本的破壞にのみ限るならば、特に之を政治行動と呼ぶ必要はない。それは經濟行動の名で澤山である。何故なら吾々にとつては、權力活動を豫想せざる經濟運動は全然無意義と考へらるゝからである。問題は、その前に在る。即ち經濟上に於ける階級鬪爭の必然の結果として進展する政治行動ではなくして、經濟行動と相並んで、同じ目的への手段としての、豫備的政治行動である。それは、經濟上に於ける階級鬪爭の、或る程度の勝利の上に行はるゝ政治行動ではなくして、經濟上に於ける階級鬪爭の勝利を容易ならしめ、その障碍を打ち開く意味に於ての、補助的政治行動である。私は今、此の意味での政治行動を問題としてゐる。そして實際に、當面の問題として考究せられなければならないのは、此の意味の政治行動であると思ふ。

我國の現在に於て、プロレタリアの經濟的實力は、今日また、ブルジョアの經濟力に打ち克つほどに、充實してゐるとは私は考へることができない。プロレタリアの經濟的組織が、未だ彼等に打ち克つだけに十分完備してゐないからである。從つて、經濟的鬪爭の進展としての政治行動――ブルジョア權力に對するプロレタリア權力の確立と、その活動とを見るまでには、遺憾ながら未だ若干の時日があると看做さゞるを得ない。今日に於て必要なのは、階級解放の最後の目標をはつきり意識したプロレタリアの、豫備的、補助的の意味をもつた政治行動である。それは飽くまで直接行動の精神に立脚したものであると同時に、時としては、それが豫備的補助的の意味に於て有効であるかぎり、事實上妥協的の性質を帶ぶることあるも選ばざるものである。納税の拒絶、××の忌避、主要貨物の不買同盟等、成し得るかぎりの對抗手段を執ると共に、議會を利用し或は威嚇して、法律制度の改廢に間接的の決定力を與ふることを豫期するものである。そして之を可能ならしむる第一條件としては、是非とも全無產階級の政黨的組織が必要であると考へる。

政治運動の三つの形態

浦田武雄

プロレタリヤの政治運動の機關は、プロレタリヤの經濟的勢力の支持に依る政黨の外にない。觀念的否定の小數者の運動

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

でなく、勞働大衆の運動として部分的勝利に一歩一歩勢力を占めて行く現實の問題として、プロレタリヤの政治運動は政黨に依るのみであると思ふ。故に「如何なる形」とは政黨の構成についての事と解して。之れには三つの形態が考へられる。

一、共産主義の原則に立脚した綱領を有する政黨、之れは必然的に極度の少數者となり合法的に存在し得ない。

二、現在存立し得る程度ののので、妥協的な綱領と行動に依りブルジョアデモクラットまでも包擁した、從つて多數黨員を參加せしむる事が出來る。

三、前二つを其の組織のうちに巧みに組合はせたもので、黨員被選擧人の資格を限定して勞働者農民を構成の基礎とする。

右のうち第一は社會主義同盟の樣に直ちに解散を命ぜられる事は瞭かである。幾度解散されても後から〳〵と度々組織して行つて明確純粹の目標を樹立すると云ふ方法はあつても之れは大衆運動となる事は出來ない。第二は範圍を廣汎にするもので、第三は之れを階級的性質に依つて限定せんとするものである。此の三つのうちで僕は最後の形態を取つて進む事が最も好い方法であると思ふ。

一體、政黨には三つの種類がある。一はブルジョアの政黨で、二はプチブルジョアの政黨、三はプロレタリヤの政黨である。然るに資本主義獨裁の權力の下では、現實に純粹のプロレタリヤの政黨は作れない。然らば我々は如何にすべきか。

中間階級は政治的デモクラシイを要求する。然るに政治的デモクラシイは無産階級も解放の途上に引摑んで行かねばならぬものだ。そうして勞働大衆の多數は此の中間的政黨に牽ゐられるに違ひない。其時、眞に自覺したるプロレタリヤは此の政黨を妨害するか、援助するか、中立の立場でゐるか？

中間階級はブルジョア階級に次ぐ强大な階級である。眞に覺醒しない大衆は此の階級に包括される。我々は此の勢力を馬鹿にしてはならない。プロレタリヤの政治運動が中間的政黨の外廓に依つてのみ實行される場合に、彼等と共に行動しないで、彼等の反動的要素を助長せしむるか、又は積極的に其中に突入し、自らの勢力を扶殖し、彼等の勢力を利用し協力して行くか？

歴史の進展は跳躍を許さない。而しそれを短縮し促進する事は出來る。中間階級の勢力を擴大し延長するか、それを無産階級の戰線に引きつけ利用するかは、懸つてプロレタリアートの政策と活動と其の勢力にある事である。

警戒を要す

糸川二一郎

運動方法は大體二つに分れる。社會主義の旗色を鮮明にして、飽く迄進まうとする者と、亦はそうしては運動上に障碍が多くて何も出來ぬから、一歩退いて大衆と共に進まうとする者とである。もとより社會改造が、少數の理論家に依つて成し遂げられるものでない限り、大多數のプロレタリアの團結が必要で、其れが爲めには成る可く各方面に接近する機會を作り、大衆と共に進まなければならぬが、俺逹が特に忘れてはならぬことは、人には誰にも野心があつて、それが立場に依つて顏を出して來る事だ。俺逹プロレタリアが、資本主義の打破を叫びつゝも現在に於いては、生活の大部分を以つて資本家の土盛りをしてゐる。資本主義は長き傳統の上に築かれたもので、大なる熔鑛爐の力を持つてゐる。如何に鋼鐵の如き氣力ある社會運動者と雖も、その中に飛び込んでは、熔解されないのは、殆んど稀である。俺逹の仲間から資本家共の議會に代議士を出した時、彼が熔解されて了つては、プロレタリア解放の運動者を資本主義の番犬として彼等の前に提供した事となるのである。要するに社會主義者の仕事は資本主義打破が目的である、如何に大なる政治團體が出來た所で、それが熔解して了つて資本主義を打破する破壞力のない限り、其れは現在の政黨に等しきものかと云はなければならぬ。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

軍隊で暴れた話

（三）

後備砲兵一等卒　福田狂二

姫路懲治隊の模様

懲治隊と云ふ所は軍隊の暴れ者を集めて懲らす所だ。衞戍監獄へやつても改心しない者は陸軍大臣が此所に入れる。海軍水兵も海軍大臣が此所に入れて、何れも現役の殘りを勤めさせるそうだ。明治三十七年姫路につくつたそうだ。まことに結構な所で、打つ、蹴る、倒かさに吊り上げる。懲罰などご責に巧妙を極めてゐた。減食の如き三十日と云ふのがあつた。地方監獄にしろ衞戍監獄にしろ、減食は七日以内で世界各國の監獄も皆七日迄だのに、懲治隊は三十日もやる。時の陸軍大臣は懲治隊にやる兵は殺しても差支ないとて、こんな殘忍な惡法を作つた。情願などは更らに出來ない。正に世界一の見事な監獄である。

看守は居なくて、士官と下士上等兵とがその代りを務め監視護衛して居る。監房は監獄とかはりはないが、軍隊の殺氣がある。房内を視察する所は内外にある。その上等兵を下士が監督して居る。看守上等兵が懲治卒と少しでも雜談なんかすると、附近の聯隊の營倉に入れる。此看守上等兵の役は中々辛い。しかし懲治隊の士官以下皆俸給が戰時手當と同樣に多いので金の爲めに殘酷な事を平氣でやる。水浴懲罰と云ふのは、寒中水風呂の中に三十分入れて置く。隊長は命令して態々水を前夜に汲ませるから凍つて居て十分計り入ると顏の色がなくなる。若し監視の上等兵などが同情して止めでもしたら、それが又ドシドシ懲罰をつけられる。此懲治隊長と云ふ奴は監獄の役人などの比でない。無類の殘忍性を持つて生れた者でなければ務まらぬ。私の行つた時は、堤桃造といふ少佐であつた。惡鬼羅刹も三舍を避ける野蠻な奴だつた。此の野郎、卒を虐待せば上官のお覺見出度しと考へて居た。自分の首の繋がる爲めには、兵隊を半殺しにする事位、何とも思はない畜生だつた。實際彼の爲めに年々十幾人の生靈は失はれた。それだから陸海軍の暴れ者も、愈々懲治隊に押送されるとなつた時には、死ぬる考へで戰友に涙を流して別れると言はれてゐた。私が東京衞戍監獄に居た時に、今井兼吉と云ふ兵で監獄に五回計り厄介になり、懲治隊に送られた男が來て、四人に懺悔談をして聞かせ、懲治隊で命拾ひをしたと話した事があつた。私が送られたのは四十三年十一月であつた。行くと直ぐ諸川と言ふ中尉が立會で、嚴重なる身體檢査をして營倉に入れた。その又懲治隊の營倉ときたら、監獄の懲罰監より小さくて石造だから、第一冷えて仕方がない。一時間に五六遍位小便が出る。毎夜寢る事が出來ない、入つて來たものは先づこれで度膽を拔

田舍の老人から

見波午治郎

私は無學な百姓ですが、幸德さんの時代からの社會主義者で、何事や爲やう々々と思ひながら、何事も爲し得ず今日に及んだものです。

若い方々の元氣な活動には、常に敬服してゐるが、たゞ一つ田舍から見てゐる私等の、遺憾に堪えない事があります。それは社會主義者の仲間の內輪喧嘩である。例へば、アナの流派とボルの流儀とは、軍鷄の蹴合ひのやうに爭つてゐる。

所が、田舍の小作人は、そんな事にはチツとも構はずに、惡辣な地主や金持に毎年々々骨までシヤブられるやうに絞り取られる。我々小作人は無智無力、同主義者たる諸君の力を唯一つの賴みにしてゐる。それが主義の機關雜誌を見ると、我々に關する事よりも先きに、內輪喧嘩の文字に花が咲いてゐるのを見ると、全く心細くなるのです。

私等小作人は、何時も地主を敵だと思つてゐます。小作人の誰の心にも、一様に地主の姿が寫つてゐる。それだのに、都會の主義者は、仲間喧嘩ばかりしてゐるのを見ると、要するに我々の苦しみや立場を知らぬ人であるかと思ふやうになつて來る。社會主義の同志は、自分の不愉快や苦しみは半日も我慢しないが、他人の痛さは五十年でも知らん振りで居られると言ふ、資本家の心そのまゝの流儀の人であつては貰ひたくないものです。

百姓をしながら、私は何時もこんな事を考へてゐます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

く仕掛である。大抵の者はこれで兵古垂れて了ふ。私は七日目にこれから呼び出されて、隊長の審問に掛けられた。又此審問と云ふ奴がウント油を絞る爲めのもので、大抵の奴なら、ヘト〳〵になつてから監房に入れられる。若しこゝで嘘でも云はうものなら、堤の野郎嚴然として『其方は嘘を云ふ、未だ改心しない審問は中止する』と吠え立てる。閻魔の廳の大王然とした彼の姿が、私の目には、たゞもう頗る滑稽に見えた。

隊長の挑戰と應戰

私が横須賀に居た時、[illegible]川氏に變節を責めた事があつたが、夫人文子氏よりの辨解の手紙が私が懲治隊に立つた後に來たので、それを轉送されたのを先方で開封して、傍の三宅中尉と言ふ閻魔の下廻りに讀ませた。そして堤は『其方は友人が改心したのを責めて居る。國賊だ懲治隊でウント懲らしてやる』とぬかした。何でも五時間ブッ續けに調べて不動の姿勢をとらされた。足が全く棒の樣になつた。審問は無事に濟んだ。そして福富軍曹と言ふのに伴れられて監房に行つた。西の五號室だつたと記憶する。室内に第一師團野砲兵第一聯隊から來て居る、河井信之助と佐世保海兵團の兼松正之と云ふ曾て海軍監獄を破獄した水兵が居た。此の兼松は犯則して水浴懲罰を課せられて歸つた計りだつた。殆んど人間の色がない。私は同情した。七日間計りの間に種々事情を聞いて反則は全く隊長の惡意に出た事を知り、火の如き義憤が燃え上つた。それで早速河井に、隊長征伐の事を計ると、飛んでもない命を態々捨てる樣な者だと言つて、顔色を變えて止めた。その一方で兼松は、どうか仇を討つて吳れと頼む。私の決心は遂に定つた。懲治隊は小さな世界であるとは言へ、橫暴なる支配者を敵とする事は革命家を以つて任ずるものゝ本分だと考へた。假令堤が鬼であらうとも、如何で屈してたまるものかと、心で叫んだ。そうして、翌日から反則計りした。又他の卒に反抗を敎唆した。併し誰れもやらない。私は、益々決心を固くした。看守や下士や看守兵を怒鳴り付け始めた。そして隊長に面會して、『君は人間味のない奴だ』とか、『軍隊は資本家の××である』とか、『懲治隊長は人類の敵である』とか、『余は社會主義を奉ずる者、現在の惡制度を

現在の福田狂二

苔のむす話

竹井虎四郎

大は浪花節から、小はバクチ打ちまで驅り立て、組織した赤化防止の共同戰線も、愈々足元が危いのか、今度は百五十萬圓の大金を使つて、二萬五千尺、十五卷のフキルム『苔のむすまで』の作製と來た。何でも飛行機から工兵隊まで使つての大道具だつて言ふんだから、多分は敵國來襲の戰爭ものであらう。それを、後備步兵大佐てな所が、水ばなをすゝりながら、赤化防止をしなければこんな事になりますなど、、最もマズい說明辯士を務める樣の、見事さや悲慘さが今から思ひやられる。

赤化と言へば、資本主義を否定する思想の普及を意味するらしいが、それならば赤化の敵はブルヂョアの他になく、ブルヂョアは國家の最大最惡の寄生虫である。そこで、赤化防止とは、要するにブルヂョアが『苔のむすまで』自分の腡慾を續けたい爲めに、頭に『苔の生えた』古手の軍人までダシに使つて、思ひ切りタチの惡い喜劇を演じやうと言ふのが此の計畫である。

氣の毒なのは、戰爭の稽古の合間に、活動役者の眞似まで務めさせられる兵隊の身の上だ。而かも、出來たフキルムは自分の親兄弟、勞働者や小作人の、血の出るやうな運動の邪魔をする道具だとはヒドイ話である。

尤も此のフキルムは三年前に計畫したものと言ふから、もう少々『苔がむし』かゝつてゐるだらう。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

顚覆して地上に天國を建てんとするものである。監獄や懲治隊は我等の意志を曲るゝ能はず、君等如何に權力を以て對するとも、余等は之を一蹴するを得ん試みに余を懲して見よ、余は、必ず己の力を君に示すであらう鼎鑊甘くして飴の如しとなす。眞乎男兒の意氣を、余は此の生命と身體とを以つて必ず君に示さなければならぬ一と、腸より絞るが如き聲を以って怒號した流石の堤も顏色を失ふて、返す言葉も出なかつた。

　毎日敎悔があつたから、堤が何か下らぬ事を云ふと、直に敎擅に飛上つて、非軍備論や革命論をやつた。皆啞然として制する所を知らずと云ふ有樣であつた。それから卒に向つて××や××や×××や××を煽動した。それが爲めに皆なが自ら氣勢を高め段々暴れ者の地金を現はして來て、懲治隊の規律は全く無くなつた。

又軍法會議と監獄

　半月計りして隊長が呼びに來た。私は多分こつちの威勢に恐れて、前非を悔ひ謝るだらうと思ふて行つて見ると憲兵中尉曹長上等兵など二十名計りズラリと居ならんで、拳銃に手をかけて立つて居る。シャレた眞似をすると思ふて居ると、憲兵中尉が慄ひながら、上官侮辱抗命の起訴に依り、軍法會議に附すると宣べた。私はア、ソウかと極めて輕く受けた。そうして衛戍監獄に押送された。

　十二月二十八日、軍法會議で懲役三年に處せられた。此の時の理事は、第十師團の軍法會議の法官部長をして居る横田と云ふ奴だ。堤と負けず劣らずの慘忍なる惡漢であつた。判決を聞くと同時に私は立ち上つて「御苦勞であつた。而し記憶して置け、俺と君等とが地位を換える日の、一度は必ず來る事を」と云つたところ、少佐以下の判士連中は驚いて眼を見張つた。

　それから大阪衛戍監獄に送られた。途中制服憲兵十名を曹長が指揮し、外に角袖の憲兵三名と警察から刑事が來て押送した大阪梅田驛に下り手錠をかけられながら、悠々と嘯いて步く時の氣持は、今一度やつて見たいそれを見た群集が「幸德の子分だ々々」と云つて付いて來る。新聞記者が頻りに近寄らうとする。そうした中を步んで、大阪城内にある衛戍監獄に行つた。

　こゝでは、私も少々暴れるのに飽きが來た。同時に讀書慾が頻りに高まつて來たので、懲罰はたつた。重屛禁（暗室入り）一回、減食一回位に止めて置いて、主力を讀書に集注した。翌年一月十八日、所謂大逆事件の判決があつた。監獄長が呼んで判決文を讀み聞かせてくれた。その時の感慨！それは今でも私の胸に影を殘して居る。

五年四ヶ月の在營

　服役する事一年九ヶ月、大赦の惠みは此の暴れ者の身にも降つた。獄を放たれて又懲治隊生活に歸つたが、懲治隊でも亂暴者は特別待遇をしてくれた。私は獨房で本なんか讀みながら、殘りの約五ヶ月を過ごし、滿期で愈々放免せられた。

　四十年十二月入營し大正二年三月一日まで、現役三年、監獄一年十一ヶ月、逃亡日數五ヶ月總計五年四ヶ月、思へば長い軍隊生活であつた。それでも私は二十七で又浮世の人になつた。

村會議員の大評定

赤岩光彌

　去年の十月、常は太平無事の平和な埼玉の一寒村に大問題が持上つた。村の三偉人？の一人なるお巡りさんは日に數度僕の生家を訪れ、御丁寧なる取調べに及んだ。村では村長さんを始め校長閣下其他全村會議員を招集して緊急大評定が始まつた。其議案が甚だ振つてゐる。一社會主義者赤岩光彌追放に關する件（尤も之は後になつて知つた）と云ふ物凄い議案だ。然しながら僕だつて故郷は一つしかない。そう容易に追放されてはたまらないが、有難いことには議論が區々で一向纏らない。其上僕の親父も村會議員樣の一分子であつたので親父の懇願で今度だけは……と云ふ事になつて今後を固く約して否決になつた。

　事の起りは、僕の生家のすぐ前に××紡織株式會社××分工場と云ふ小さな工場があつて職工も男女合せて百人足らずであつた。僕の生家にも二三人の職工が下宿してゐた。去年の九月の末歸省するとき僕が堺さんのパンフレットを十五六冊持って行つて、一冊づゝ渡した。職工諸君は喜んで、それを工場に持つて行き休み々々の時間には讀んでゐた。所が運惡くそれを融通の利かぬ監督が見付けたので何條たまるべき、直ちにパンフレットは沒收され其職工はさんざんおどしつけられ揚げ句の果は駐在所へ報告に及んだ。お巡りさんは青くなつて横走りに飛んで來た。早速その出所を調べた結果、遂々僕が宣傳に來たと云ふ事になつて、あんな大騷ぎを演じたとの事である。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二回全國水平社大會

高橋貞樹

一、代表協議會

吾が水平社が創立されてから一箇年を經過したのみなるに、運動の進展は眞に、燎原を燒く火の如きものがあつた。そして去る三月三日に第二回全國大會を開くに至つた。二月十七日吾々は地方委員の協議會を開いて大會の打合せをし、其の後の十日間、宣傳やら準備やらに忙殺された。

三月二日は早朝から地方水平社の人々が、血を以て彩られた荊冠旗を先頭に水平歌勇ましく京都の街に乘り込んだ。會場は岡崎公會堂である。會場の內部、演壇の後には青い竹槍を柄にし、黑地に眞紅の荊を染め拔いた荊冠旗が數十旒となく立ち列んで團結の力を示し『鬪ひは死より救ふ道である。而して自由への門出である』など丶大書した長旗、大赤旗が物凄く立つて居る。議席には京都、奈良、大阪、三重、兵庫、愛知等近畿一帶の人々は云ふに及ばず、中國、四國、九州から、また關東方面からの水平社代表が着き、其の後方から二階へ掛けては傍聽者が犇々とつめ掛け階下にまで溢れ、中には在鄕軍人や、婦人も居た。

午後一時、栗須七郎氏の開會の辭に初まり議長に南梅吉氏、副議長に寺田、島田兩老を副議長に推して議事を進める。議長の挨拶、代議員の資格審査があつて、阪本君過去一年間に於ける水平運動の經過報告あり、次に會計報告あつて休憩。

二時再開、議事に入るに先立つて、臨場の私服巡査の退場と速記中止を要求する緊急動議が出て滿場これに贊して怒號る。これが收まると同愛會長有馬賴寧氏退場要求の動議が出る。これには反對者が出て否決された。

小學校に於ける差別に關する件、人間は尊敬すべきことを小學校に徹底さす件は一致可決。全國少年少女水平社設立の件は少年山田孝野次郎君が說明、小學校に於ける差別、惡魔の敎育より脫せよと叫び、滿場に感動を與へた。白熱的拍手を以て可決さる。

軍隊內差別に關する件、陸海軍大臣に反省を促す件は一括して可決して、起草委員をあげて次の抗議書を發した。

かつて穢多の稱は廢されたるにも拘らず、陸海軍隊に於て吾等特殊部落民に對する虐殺的差別は今も存在して居る其の結果は吾等同胞の胸裡に悲しむべき暗影を投げ與へて居る。これ陸海軍當局の取締の宜しきを得ざるに依るものと認め、吾が水平社は此差別的待遇に對して極力抗議し陸海軍隊に訓示を與へんことを要求す。

侮辱處罰の特別刑法設定を建議するの件は、吾々は現代の法律に賴らぬと云ふので一致否決差別事件の法律的保障あるまで直接行動に訴へて叫彈することを滿場一致で可決し、また侮辱的言辭を以てせざる差別待遇に對する方法の件、戶籍簿、身許調書の改正を要求するの件、一般民より離婚されたるとき慰藉料請求の件、其他を可決した。

改善論者部外と同族とに對する態度に就ては、其の反省を促し頑迷なるものには鬪ひを辭せずと決した。部落改善費を拒絕するの件は、部落改善は兄弟を墮落さすのみ有害無益なりとて一致拒絕と決し實行委員をあげた。部落の經濟的向上を圖るために、商業上の連絡をとるの件生產組合及び消費組合を設立する件を可決、水平物產取引所、水平銀行設立の案は部落のブルジョアの役をするだけだと否決した。

本願寺より獨立して自由敎壇とするの件、募財拒絕の徹底を期する件、水平運動に寺院を開放せしむる件、黑衣同盟に關する件、立敎開宗七百年記念法會に水平運動宣傳の件は、眞の親鸞の敎義を徹せしめる見地から熱烈なる演說の後ち一致可決した。水平圖書館の案は可決したが、水平大學設立の件はブルジョア的なりとて否決する。

續いて勞農ロシアの無條件承認の件に移る。盛なる贊成演說

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

あり、何れも無產階級の獨裁を絶叫する、結局委員附託となり保留になつた。全國婦人水平社設立の件は阪本女史が說明、滿場の拍手の裡に可決した。青少年團十發成、青年團在鄉軍人會の改造乘取り切り崩しを可決。

夕食に三十分休憩。

夜に入つて、最先きに普選即行に關する件である。起つもの悉く反對意見を述べ、吾々は現代の制度を否定し、最後の直接行動により吾等の新社會を築くを目的とする故、中間に於けるブルジョア、デモクラシーの存在を不要とし、殊に促進運動の如き水平運動を墮落せしむるものとて即決否決した。治安警察法撤廢の件は、あつても無くても構はぬと云ふ意氣で否決し、農村にありては農民組合設立の件を可決した。水平運動の國際化に關する件は、あらゆる虐げられたるものが國際的に團結して闘ふ意味からして滿場一致して可決した。この時緊急動議あり朝鮮無產階級運動に對する日本政府の苛酷なる壓迫に對して抗議すべしとの提案であつたが、獨立運動とは違へて反對するものが出て賛否兩論に分れ、喧々囂々たるものがあつて議長保留を聲明する。

水平運動今後の方針、自治資金の件を議し、水平印刷所設置の件、水平週報發行、水平月刊の件を可決した。また水平社同人を僞稱するものを取締ることを議し、三月三日を水平デーとし大會開催地を毎年變更と定めた。最後に勞農ロシア猶太人視察の件は保留、德川一門に對して其の反省を促すことを可決。午後十時水平社萬歲を三唱して散會した。

二、全國大會

二日、京都驛附近に分宿した各地水平社の人々は、早朝假本部に集合し、喇叭隊と少壯水平社を先頭に荊冠旗を押し立てゝ東本願寺へ向つた。折柄・本堂ではしめやかな晨朝の勤行が始まつて居た。その夢のやうな律調を破つて突如高唱された水平歌に數千の鳩は驚き立つたが、讀經僧も參詣の同行も石の如く堅く縮まつて居た。一同は勇ましく本堂から阿彌陀堂に進み、香煙立ち昇る須彌壇を背景に整列した。栗須氏は立つて、吾々は金色燦爛たるこの殿堂によつて蹂躙されて來た。吾々の運動は七百年前の親鸞に代るものだ。吾々は命がけで親鸞を看出さねばならぬと述べ、次に西光君が偶像本願寺の破壞を絶叫した。この時投げつけられた小錢は須彌壇のあたり蛤燈籠まで落ちて凄い響を立てた。募財拒絶の斷行を期す決議文を讀み上げられて、水平社萬歲の聲と拍手とは一時に起つて堂を搖がした。かくて東本願寺を辭した群衆は直ちに西本願寺に向つてこれを占領し阪本氏が親鸞の教義を說き同じく萬歲を叫んで去つた。右本願寺を占領したとき、句佛上人は本堂側に出で大衆の引上げるのを無言のまゝで見送つて居たといふ。

一同は降りしきる雨中を驅足で七條烏丸通から東山三條の方へ大示威運動をしつゝ會場へ練り込んだ。會場内には聽衆がぎつしりつまる。水平歌は階上に陣取つた少年團によつて高唱され、五色の宣傳ビラは場内を舞ふ三角旗は波打つ。感激裡に南中央執行委員長は登壇、男らしい產業的殉教者である吾々は人類の解放に向つて突進しやう、眞に全ての人類が水平線上に上る日を實現しやうと開會を宣す

二日の代議員會の經過を駒井君が報告して滿場これを承認し阪本君の過去一年間に於ける運動報告があつた。次に昨年の創立大會で決せられた紀念すべき意義ある綱領と宣傳とを朗讀、滿場肅然として聞く。本年の大會決議を滿場一致して可決した、

決議

一、吾等に對しエタ及び特殊部落民等の言行に依て侮辱の意志を表示したる時は徹底的糺彈をなす

一、東西本願寺に對する募財拒絶の斷行を期す

一、政府其他一切の侮辱的改善策及び恩惠的施設の改革を促す

引き續き各地からの祝辭祝電の數百通を朗讀して代表演說に移る。全國の同志が六千部落三百萬同胞に代つて其の悲痛なる體驗を語り、水平社の必然と正義とを絶叫した。吾等自らに生あらしむるよき日の希望に醉ふ

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

て白熱的聲援を送るなかにも少女代表增田久枝さんが、可憐な洋服姿で演壇に立ち不合理なる差別の下に毎日々々涙の日を送つて居る事實を述べ、『皆樣が熱心に運動をして下さることを心丈夫に思つて居ます。どうか兄さん姉さんお願ひします』と結べば、拍手とすゝり泣きの聲とが場に滿ちた。代表演說が終ると自由演說に移る。各々鬪爭の正義を說き差別撤廢を痛論し、水平の新社會を創ることを力說した。

大會開催中、會場附近で京都府の特高刑事が手眞似で同族侮辱の意を示したので、目撃した一水平社同人が會場に捕へ來り、白狀せしめ、高等課長を連れて來て斷乎たる處分を誓はしめた。このことがあつて間もなく、午後三時頃、場外を通るパン屋の小僧が侮辱的言辭を弄して逃げたのを水平社同人が追つかけて詰問した。すると川端署の一巡査が制止したので、激昂した會衆數百名はドッとばかり會場から出て巡査を袋叩きにした。この騷ぎに川端署は數十名の警官を繰り出して來たが、またも二名の警部補が袋叩きにされた。以上三名の警官は何れも負傷し、水平社では石田君が傷いた。

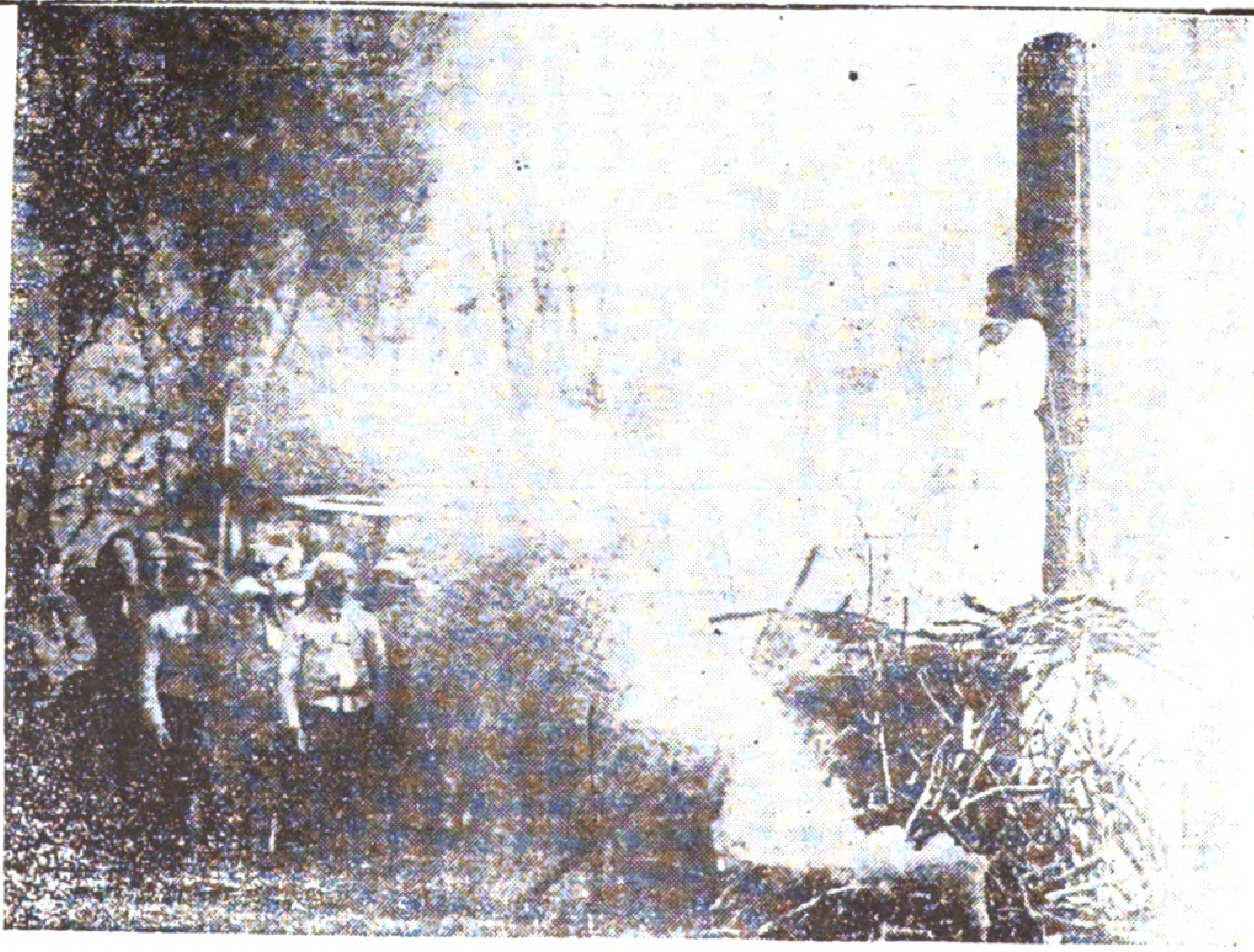
騷ぎが靜まつてから演說を續行し、午後四時大會は滿堂を搖がす水平社萬歲の聲と共に閉會した。三萬の會衆は再び荊冠旗を押立て、水平歌高らかに歌ひながら渦をなして散つて行つた。

まことに鬪ひは解放への唯一の道である。吾々は鬪ふ、三百萬兄弟に生あらしめんがために鬪ふ。水平社はこれからである。壓迫も迫害も、これに對する鬪爭もこれからである。(三・一七)

我等同族の使命

近藤生

私達の使命！　私達の使命！　夫は現代の如き惡魔の社會組織を根本より改造する事だ。此の事に對する先例は、先覺たる露國の同志ユダヤ人が既に我々に示してゐるのである。我々に取つて、忘る、事の出來ないのは、愈々其の日が來た時、自ら進んで生命を捨石にする事だ。此の捨石となる事を恐れる樣では、自由と平等の世界は永久に吾等にはないのだ。表面にのみ立つのが英雄ではない、眞のかくれたる英雄とは此の捨石になる尊き人の行爲を言ふのである。



革命に殉する少女

見よ、森影に屯する白軍の陣營に捉はれし、かの女は年若き露西亞の共產黨員である。今や炎々として全身を包む猛火よりも熱き、乙女の胸に燃ゆる自由と正義の情熱は、電信手たりしかの女をして、その郵便局が反革命軍に占領された時、敵の命を奉じつゝ、殊更に誤文を打電する事に依つて祖國の革命軍を扶けしめた。

それに對する報復が、此の火刑となつて現はれた。無產階級の同胞よ、記憶せよ、此の犧牲と此の殉道とを！

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會運動に投ずるまで

山岸久雄

一

N君――

いよ〱明日から宣戰布告だ。斷頭臺上一片の鮮血にまみれて倒れるか、又あべこべにやつつけるか、よしそこ迄行かずして、途中で見事に玉碎するか、どつちにしても僕の運命は定まつた。その壯烈な門出に當つて、僕は何等の掛値なしに無限の歡喜を感ずるのだ。

思つた丈でも信じてくれ、此の些やかな微弱な僕が、數千年の傳統の内に、もがきにもがき、苦しみに苦しみ拔いて、今も尚永遠の鐵鎖に縛られている、無産階級解放の爲め、その血稅の祭壇に此の生命を供せんとする事實を――。

二

半生の繋縛を斷ち切つて、突然行衛を晦した僕は、その後、一切の知己朋友や先輩に對し、音信不通で押し通した。

ある主義から他のある主義に變遷するには、大なる矛盾と溝渠とがある、それを充塞せん爲めには、決死的の體驗と深刻な思索が必要だ。僕は此の溝渠をコンクリートで固める爲め、身を跳らして勞働階級に飛び込んだ。

純小作人の子と生れて、幼い時からどん底の苦艱を甞めた僕であつたが、環境と周圍に引づられて、兎も角もあゝした思想の圈内に棲息した僕としては、もう一度此の體驗を新しく、繰り返す必要があつたのだ。

勿論僕の懷疑思想は、より深刻に行き詰つて、眞理に即して勞働を敢行せずにはおられぬ程の、理性から來る衝動に、動かされたことも事實である。そして僕は半生の全能力を傾倒した舞臺面から飛び出して、まつしぐらに目差す一路に突進した。

それから今日の期間迄、僕は可成の試練に遭遇した。たとひそれが感情的であつたにしろ、あの澤山の先輩知己から離れると云ふことは、可成にひどい打擊であつた。殊に何等の成心なく、みじめな僕を拾ひ上げて、あれ程迄に應援して下さつたT先生の高潔な心情を思ふにつけ犬畜生でない限り、單に思想上の錯誤から、あの反逆を餘儀なくした僕自身の眞理性を僕自身が憎む程の、辛い愁しい思をした。だが一歩振り返ればもう僕は駄目であつた。その時僕は過去の事象の一切から目を閉ぢて一躍二躍、躍進した。

その深刻な探理性は、當然僕の實生活にも波及した。熟練職工でない僕は、十二時間働いて、たつた一圓四十錢の日給しか貰へなかつた。それで親子が食はねばならぬ。己自身の問題である丈に、僕はさのみ苦しいとは思はなかつたが、巻添を食つた親父が氣の毒で堪らなかつた。

齡七十の域に達した老父が、此の貧乏最中に病氣にかゝつた時等は、さすがの僕も氣が氣でなかつた。熱の爲めに呻さるゝ苦悶の聲を聞き流して、暗い内から工場に奔り出す氣持は誰にも解るまい。そうしなければ親子二人御粥一杯啜れなかつた。

幸に、病氣は僅かの期間で、快復したが、若しもう少し長引けば、餓死か强盜か、二つに一つを選ばなければならなかつた。犯罪の裏面にはこうした事實が澤山ある。その諒察を體驗に依つて僕は痛切に資本主義の存在を呪つた。

父はその後うどんの行商を開始した。水洟を垂し乍ら、病氣上りでよろ〱して暗さから暗さに渡り賣り歩く姿を見る時、僕は堪らなく痛ましかつた。父の過去が勤勉であつた爲めに、その腕一本を頼りにして僕は兎も角、今日の敎養を克ち得たのだ。

その思想生活が父をこれ程苦しめる、そうした事實を思ふにつけ、僕の惱みは百倍した。その惱から來る憤怒の念は、云ふ迄もなく社會制度の呪咀である。僕等親子は共力して、此の制度を破る爲めにあらゆる艱苦と鬪かつたのだ。

三

君は恐らく勞働生活そのもの

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

に、無限の憧憬と讃美の念を懐いてゐることであらう、機會さへあつたなら、いつでも決行する氣でおるであらう。勿論僕もその氣分を肯定する、だが工場の壁に張り出された、工場法を讀んで見給へ。作業中慘死した場合でさへも日給僅か百餘日の手當丈だ。一生不具者になつた時には、その半分にも行かないのだ。そして日々に生命の根を枯らす過激な勞働に携つて、生活の糧と云へば、僅かに口を糊する丈だ。

僕の入つた工場は、僅か百人たらずの所で、それも一年計りの短かい期間であつたけれど、手足を失ふ程の重傷を受けたものが四人もあつた。

彼等には妻もあり子もあつた。そしてこの僅かの手當で、とぼ〳〵と去つて行く姿を見る時、僕は萬斛の涙に咽んだ。

事件は極く小さかつた。だがそれを擴大すると、全社會の無産階級に與へられた、極めて悲痛な宿命なのだ。この宿命のきづなを握る資本家階級に對抗する反逆思想こそ、即ち僕が共産運動に携はる直接の原因なのだ

N君――君と僕とは、文字通りの竹馬の友だ。雪の深い千曲河畔に殆んど同時に生を受けた。そして等しく人間の子に相違なかつた。だがその實生活は何と云ふ懸隔の甚しいものであつたらう。君は富裕の家に育つて、暖衣飽食あらゆる贅澤の限を盡した。

僕は藁小屋に豚の如く眠り乍ら、起きれば飢餓と貧困に、堪ず苦しみ虐げられた。僕の次兄は發作的の氣狂であつた。長兄は石炭掘に出掛けた儘、永久に歸つて來なかつた。九人の兄弟の七人迄も亡くなつた當時の悲慘は君もよく承知の筈だ。その兄弟の死の主因は、藥用不足と營養不良の間接直接の原因から來た結果であつた。だが僕は、貧乏に對しての嘲笑や侮蔑に向つては、猛烈に反抗した。

その心を理解して、君は僕に至極温和な友情を示して呉れた君の父母や姉妹でさへも僕の肉親以上に心から僕を愛した。當時の僕は無性にそれが嬉しかつた。だが僕は段々成長すると、僕はむしろ明かに、君等一族を敵視した。何となれば君の一家は町一番の地主樣で、その豐滿な生活は、小作人の膏血を搾取した結果から來ることを僕は明かに意識した爲であつた。之れから間もなく親に無斷で故郷を出奔した。

五

世間は僕を酷遇した。燃ゆる反逆の心を懷いて、敗殘と流浪と困憊の内に惱みつゝ、僕は益々對人生の懷疑氣分を色濃くした。その激動の渦に卷かれ病を得て、せめてもの望を親の奉仕に托し乍ら故郷に歸つた。その時心から僕を迎へて呉れたのは、矢張親父一人であつた。

病が治つてから僕は生れ代つた氣分を持つてみつしりと働く内、幸か不幸か、その秋君も御承知の、あの森文と云ふ惡魔のやうな地主から、房々と實つた稲を全部差し押へられた。不快な故郷に愛想をつかし、茨城移住を計畫した僕の仕事が原因となり、十八年も前の借を理由にして、あの慘酷な無慈悲の仕業に出づる可く、森文はその鋭い牙を磨いたのだ。僕は早速訴訟を起した、そして見事に勝つたのだ。だが結局費用倒れで、僕の一家は丸つ切りの空尻になつて仕舞つた。生れ付膽玉の小さい兄は此の事件に驚天して、又發作的に氣が狂つた。

茨城で流感の爲め、父兄が危篤に陷つた旨の電報に接した時、僕は恰度T先生の庇護の下にある種の事業に携はつてゐた取るものも取り敢へず歸郷して見ると兄貴は死んで、父は辛くも助かつてゐた。その時のT先生の恩愛を痛感した僕は絶えず襲ふ思想上の矛盾と錯誤に苦しみ乍らも、專心一意その事業に努力した。然し遂にその苦悶が火花を散らし白熱化した時、僕はその絶頂から、飛び下らずにはをられなかつた。

九

以上が僕の社會運動に携はる可く決意した、心的經過の小部分だ。例へ境遇が違つても、僕の性格を知悉してゐる君自身にはよく了解が行く筈だ。此の上僕が君に向つて望むことは大勇猛心を振ひ起して、共産運動に携はる、平素の思想を實現して欲しいのだ、その爲め敢て此の拙信を呈上する、意のある所を察して呉れ給へ。(三・一七夜)

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

社會運動の經驗を思ひ出（三）

1 蠶

西尾末廣

艱難、汝を玉と爲す。私は困難な事にブッ突かる毎に、それを又、パッスして後を振り返つて見る毎に、恰度、蠶が一皮脫ぐ毎に大きくなるように、自分が大きくなつたように思はれるのである。

私がストライキにブッ突かつた最初は大正五年の十月に住友製鋼所に働いてゐる時であつた。給料値上げと請負制度の改正との要求を提げて四ツの組から各一名宛の代表者が出て、色々と交渉したが結局理屈敗けして要求は拒絕された。百八十名の職工は全部工場を引き揚げて、善後策を協議する事になつたが、其の當時未だ廿六才の靑二才であり、亦其工場に勤めてから未だ半年にも成らない新米であつた私は、新に交渉員に擧げられて一人會社の重役等と四日間に亘つて談判をして、かなりな成功を收める事が出來た。

其の時私は「俺は案外偉いぞ」と、惡く云へば自己惚れ、善く云へば自信が出來た。然しその自信には「或は怪我の功名かも知れぬ」と云ふ暗い影があつたが、其の後の度々の經驗によつて、その暗い影もなくなり「俺は相當に仕事が出來るぞ」との「確信」が出來て來た。

斯ふ云ふ自信の、若しくは自己惚れの絕頂の時に、彼の大正十年の大阪電燈會社の爭議に遭遇したのであつた。

當時電業員組合長であつた佐藤安太郎君等の交渉の結果に滿足出來なかつた安治川發電所の人々は「再び起てば、大阪聯合會が應援して吳れるであらふ。」と事を豫期して、佐藤君等を排斥し、新に實行委員を選んで交渉を開始した。が忽ち要求は拒絕されその上に全員解雇の宣告を受けた。全職工は狼狽、度を失つて爲す所を知らざる有樣であつた。

ブルジョアの此の暴虐なる挑戰、その前に陣營亂れたる同志の窮境を見た時、疑に再起に反對し、應援しない事を警告した我が大阪聯合會も急據委員會を開催して「聯合會の壞滅を覺悟して應援する」事を決議した。

然し此の時は稍起ち後れであつた。春日出發電所の如きは半分以上も裏切者が出てゐた程であつた。爲めに稍望をかけてゐた十三日の最後的交渉は會社側の强硬の爲めに不調に終つた。

「モウお終ひだ。要求を少しでも容れさせ樣とする望は絕へた。只此の後に採るべき手段は、會社に出來る丈け多くの損害を與へる事だ。そしてそれは發電機を××する事だ。オ、俺はそれを決行しなければならぬ」と私はその時腹を定めてしまつた。

幸ひその晩に四貫島の或お寺で演說會があつたから、ウンと氣勢を揚げておいて、散會の流れを示威行列にして警戒の目を此の方に集中しておいて、或行動を決行しようと計畫し、又準備もチャンとして置いた。

「事に依ると今日限りの命かも知れない。少くとも當分娑婆の飯は喰へないだろふ」と思つた。

鮮血途に迸る

—川西村水平社の蹶起—

三月十七日、奈良縣磯城郡川西村大字下永、南田勝次郎の姪の嫁入り荷物を見物の一人、森田熊吉が無智な侮蔑の態度を示したので、下永村民より當然の憤激を買ふた。それを國粹會員村上常次郎なる者が、名を仲裁に藉りて、暴力を揮ふて水平社側の謝罪の要求を威壓せんと、兇器を携へた八尾附近の國粹會員二百數十數並びに八尾村民約四百名を驅り集めた。此の頑れ〳〵の暴慢に愈々憤起した水平社は十八日午後一時頃附近の社員約七百名の應援を得、各自竹槍、日本刀、匕首等を翳ざして同郡都村八尾邏の辻附近に押寄せこれに應じた。双方の斥候隊四十名に鍵之辻の橋上で大亂鬪を演じ重輕傷者數名を出し水平社側は荊冠旗を奪れた。所轄川原本分署では大西署長以下全員出動必死となつて警戒に努めたが署長は帶劍帽子等をもぎ取られた上、水平社側の本陣に拉致された。急報に依り奈良縣警察部より近藤保安課長以下急行し附近各警察署より約百名の應援隊を急派し漸く大西署長を生還せしめた。遂に水平社側は寺院に據り、國粹會側は神苑内に篝火を焚き相對峙した。十九日午後四時折柄の猛雨を衝いて、双方約五百は都折地内寺川大橋を挾み盛に發砲を開始し鬨の聲を揚げ將に衝突せんとした。是より先奈良縣佛教團の一行は仲裁の爲め水平社の立籠つて居る教願寺に向つたが水平社員は國粹會側が、事件起の

それで親友四五人と共に、ユックリと牛肉で夕飯を喰つて演説會場に行つた。

以心傳心、同志は皆『今夜は?』と思つてゐるらしかつた。私の前に出た東君も非常に昂奮してゐた。聲量の裕な同君も直ぐに聲を枯らして、シワ枯れた聲が頭のテッペンから出るようであつた。

最後に演壇に立つた私は暫時無言で聴衆を見渡した。本堂にギッシリ詰つてゐる人々の顔には薄暗い電燈の光りが氣味惡い影を掲げてゐる。庭に溢れて、或は木に、或は石塔に攀ち昇つてゐる數百の聴衆の面は皎皓たる月に照らされて物凄く青白い。『古寺の夜の演説會』それは何んとも言ひしれぬ悽慘な空氣が張つてゐた。

『數時間の後にはモウ此の世の人で無いかも知れない』との哀愁が犇々と胸に迫つて來た。

『諸君、理窟はモウ無用だ。我々の要求が如何に正當であるかを主張することも會社の措置を罵倒する事も、今になつてはモウ無駄だ。今我々に必要な事は『屈從』か『牢獄』か、その何れかを撰擇する事だ』

何の前提もなく私の口は、否私の叛逆の血はブッキラ棒に恁ふ叫んだ。聴衆は極度に緊張して咳一ッする者もない。私の血は私の理性の羈絆を脫して數分間、何事かを叫んだ。

『諸君!!! 問題は至極簡單だ。卑怯者は起ち去れ!! 俺は行く!!!』

私の演説は終つた。然し一分……二分……、私は依然として演壇に立ち、聴衆も依然として物凄き沈默を續けてゐる。三分……、四分……、私は演壇を去らんとした。聴衆は初めて夢から醒めたように一齊に拍手した。斯くて演説會は大成功の裡に閉會し、豫定の如くその流れは示威行列となつた。然し殘念な事には港口で船を斷つた。或る豫備行動をして置く筈の二人の罷工團員はヘコタレて終つた。

失望落膽、ガッカリして重い足を引き摺るようにして『スパイ』と棍棒を提げた國粹會員の一團とに尾けられながら、私とC君とは次のような會話を交しながら歸途についた。

『オイC君、今度は二人丈けで決行しなければならないと思ふが君は如何思ふ?』

『ウム俺もそう考へてゐた處だそれでは其の方法に就て相談しなければならないが、恁ふ尾行につけられては仕樣が無いね』

『それでは明日各自に尾行を撒いて正午に寶塚の温泉で落ち合ふではないか』

『ウムそれは名案だ。此の世の憶出に風呂にも這り、見晴しの好い所でチビ〳〵酒でもやりながらユックリ相談をしよふ。』

幸か不幸か、翌朝私が家を出ようとする處へ檢事局から呼び出しに來たので此の計畫も、又復蹉跌した。

そして其の夜に端建倉庫での警官隊と罷工團との大衝突があり、又その翌五日は安治川發電所前で大衝突が起つたため、局面は急轉直下して會社側の讓歩となり。爭議は解決したのである。

その時私は『ア、助つた』と思つてホッとした。命を懸けた計畫の二度まで失敗した事を心から喜んだ。ホンとに喜んだ。然しその後から直ぐ云ひ知れぬ淋しさが襲つて來た。

『私は卑怯者だ、自分の計畫の

つた動機なども考へず徒らに水平社限道の爲め、多數を恃むでの心事を惡んで峻拒した。夜に入つて愈々險惡となる模樣なので清水奈良警察部長の申請によつて成毛知事は奈良歩兵第五十三聯隊に軍隊出動の申請をし、一個大隊直ちに準備を整へた。大爭鬪を豫期された血腥き形勢は其後豪雨の爲め、幾分氣勢を阻まれ、加ふるに大阪から來た警官二百三十名と奈良縣下數百名の警官並びに憲兵の漸撤さ、清水警察部長が水平社の本陣たる常願寺に赴き懇願的に一切の挨拶を述べ諒解を求めたに依つて、遂に國粹會側の退陣後直ちに水平社側も退陣した。廿日警察部長立會、双方代表幹部會見となつた。一方森田由松は水平社側の南田持次郎宛謝罪狀を差し出した。南田氏は『事さへ判れば、將來に殘るこんな證文は要らないから』と返却した。爭鬪中同志二人が捕へられて、殘忍なる危害を加へられた恨を忍んで、この美はしい態度に出た水平社、そこには階級的自覺の前に立上つたものゝみ抱き得る信念が示された。この擧は、何等そこに階級的自覺もなく、徒らに暴力を恃んで蠢動盲擧、半杯の振舞酒に醉ふては、身の存在を忘れる無賴漢にも深く反省を促す機會であつたと共に、蹶起せる無產階級の威力を世に示すに充分であつた。（新聞記事に依る）

失敗を喜ぶとは何事だ。こんな事で是れから後にも屹度有るべき命懸の仕事が出來るであらふか」私は自分の此の問ひに對して「出來ます」との答が出來ない爲めに惱んだ。「俺は偉いぞ」と思つてゐた頂上から「俺は駄目だ」と云ふ千尋の谷へ突き落された譯だ。

此の大電爭議は私の過去に於ける一番眞劍な經驗であつた丈けに、その惱みも、それから起る淋しさも又一番深刻なものであつた。

× × × ×

「艱難、汝を玉と爲す」は「經驗、汝を玉と爲す」に通じる。私は其後幾多の經驗を經た。現在の私にはモウ右に述べたような惱みはない。「俺は偉いぞ」とも思つてゐなければ「俺は卑怯者だ」とも思つてゐない。何か困難な事にブツ突かる毎に「俺は今、蠶のように一皮脫ぎつゝあるのだ」との喜びと勇氣とを持ち得るようになつた事を喜んでゐる。

8 國粹會に襲はれて

加藤一夫

僕のやうな一介の文學書生に此の運動なんか出來る道理はない。僕としてはたゞ宣傳をする事位が關の山だ。その宣傳も、それを本職にやるのでなく、小說をかく傍やるのだから、うまく行く道理はない。だから僕がやれさうな事は、講演をやる事と、文書の宣傳をやる事位だ。講演は最初かなり澤山やつたけれど、今は會場さへ容易に借りられないのでそれもやれない。今は「自由人」を月々出して居る位の事だ。

講演會では芝白金猿町の相生亭で民勞會に襲はれて、松本淳三君が刺されたのを初めとして和歌山でやつた時には國粹會に襲はれた。此の時の經驗はしかし色々の事を敎えて呉れた。それは國粹會に屬して居る謂ゆる鬪士なるものも決して我々と全く相容れないものではないと云ふ事だ。彼等は初め隨分我儘勝手な妨害を加へたが、しかしその親分と僕とが談判をする間は親分は僕を乾分達の亂暴から護つて呉れたし、そして談判がついたときは、みんながさつぱりとした氣分になつて「お前等も俺等も要するに兄弟だからな」と云ふ樣になつた。

僕は彼等に見るところがあつたので、彼等に宣傳するつもりで、その親分と日を改めて會見せん事を申込んだが、その夜直ちに彼は僕と今一人を或る料理屋に招いて一夕の宴を張つた。僕は勿論、彼等をその場で共鳴させる事は出來なかつたが、それでも大に諒解し合ふ事が出來るやうになつたのは事實だ。

【批評】貰つた原稿を批評する事の失禮を恕して貰ふ。

加藤君はボルシエヴキズムの痛罵者である。それは要するに、人と人との結合が完成して、組織を作り上ぐるまで達する事の妥當を否定する考へに基くと見なければならぬ。それ程に、人間の主我性を高調する加藤君が、アナキストたる自分と、國粹會との間に野合點を見出そうとしたのは、何と言ふ偉大な努力であらう。(北原)

詩二つ

赤旗の歌

米田曠

怨みを前に――
屍を踏み血潮を浴びて
來れ！我が友
鐵鎖を斷ちて
赤旗の下に――

去る者は去れ――その後は追はじ
卑怯なる裏切者！
我等は守る――
肉を裂き！骨を刻みて！
赤旗の下に
集り來ぜむ！。

赤旗は飜めく
蒼空にひらめく――
進め――進め！
手を握り我等が友よ、進め！
屍を越え、血潮に染みれ
行け！赤旗の下に、自由の爲に。

幼兒

安邊健吉

悲しみも喜こびも知らない幼兒が
たゞひとり
廣い野邊をみつめている
さもうらめしそうに
白い大きなブルジョアの白壁に
夕日が眞赤にあたつて
浮世の塵も草も木も
皆んな赤く染めた
野良がへりの父の姿が目に付いた時
幼兒は
野邊をみつめることを止めた
そうして
黑く眞黑に汚れた
野良着物にしがみついて
さも喜しそうに
笑をふくんだ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

9 放り投げられた話

北原龍雄

大正八年秋の足尾鑛山の大ストライキの時の事である。幹部は皆拉し去られ、會社は要求を峻拒した。爭議團は最後の手段として、古河本社に陳情なすべく、二十七人の代表者を東京に送つた。爭議の資金も既に乏しくなつてゐたであらう、代表者は千住の木賃宿に泊つて本社へ迫つた。要求は勿論、本社でも肯かれなかつた。

一同は木賃宿の二階で、歸山か運動かの協議を開いた。そこへ私は參加した。それは一行の中に一人友人が居て、それに呼ばれたからである。

協議の結果は古河本社と古河家とに對して極力戰ふ事に決まつた。そして先づ、檄文と演說とに依つて、市民の同情を喚ぶ事から始める事とした。代表者の中から、六七名の運動委員を選び、私もそれに加はつた。

翌日は委員を二手に分け、私等の幾人かゞ應援しつゝ、一方では演說會の會場を探し、一方では檄文の印刷をした。午後三時頃には、明治會館はじめ、寄席や貸席を四五ケ所も定めたし檄文の版も組み上つた。それで明日から愈々始まるのだが、私の心にかゝるのは警視廳の壓迫の程度であつた。實は運動の運命は大半その點にかゝつてゐる。

そこで私は思ひ切つて檄文の校正刷を携へ、委員の人達と高等課を訪問した。此の頃雜誌の下檢閲をやつて貰ふやうな[illegible]法で、下相談をする爲めである。

所が檄文を一行半ほど削つて、他は一切特別の取締は加えない事に相談が纒つた。先づ上出來だと喜んで檄文は一先づ三萬程刷り、演說のチラシの製作にもかゝつた。その他色々の準備を進め、明日は早朝全員出動する事とし、委員は木賃宿に歸つたそれはもう十時過ぎであつた。

所が一時間ほど經つとむこうから電話がかゝつた。兎に角スグ來てくれと言ふ。言はれるまゝに二人の友人と一所に行つて見た。行つて見ると意外にも形勢は急轉して居る。

昨日は、一同の緊張した顏に戰意が溢れて居た、一語々々憤激に燃えて居たのに引きかえ、何の事だ、今日は半分過ぎは泥醉して眠つて居るし、起きた者も力の抜けた顏つきで默坐し、たゞ委員に選ばれた者だけ、聲を絞つて憤激してゐる。私は一目見て大體の見當は附いた。

事情はかうである。今朝委員の出たアトへ、三人の洋服を着た男が來た。一人は古河の社員、一人は高等課の警部、一人は石塚とか言つた運動ブローカーそうして三人は代る々々、嚇したり賴んだりして、東京で運動する事の不利益を說き、無理に附近の料理屋へ誘ひ込んで酒をすゝめ、日暮頃までには運動放棄の相談を纒めさして了つた。

今運動しては鑛山の爲めに不利益だ、溫順しく歸ればキット古河では考へてくれる。彼等は皆んなかく信じて居た。三人の買收員が、三方から情理を盡した勸說の結果は、此の信念を動かないものにして終つた。委員の熱辯も何の效果もない。中には、收監されて居る同志の爲めを考へろなどゝ反噬する者もあつた。彼等は、今こゝで運動すれば、幹部の保釋が許されないなどゝも言ひ含められて居た。

私は癪に觸るよりも、情けない感じで胸は一杯であつた。一時間も沈默して居た後、思ふまゝの事を話しておいて、兎も角諸君とは別れやうと言つて歸つた。歸り際には、寢てる者まで無理に起して、殆んど皆玄關まで送つてくれた。夜更けの木賃宿の出口に、重なり合つて見送つてくれた人々の、黑ずんだ顏から、力の無いさいならを聞いた時、抑へて居た淚が一度に落ちた。既に電車の無くなつた町を、私等は默つて歩いた。

此の事件は極めて小さいが、すべての運動に同一の破綻の危險は常に伴ふ。

警部と社員とブローカー、此の三角同盟の運動破壞作業は、そのまゝ相似形的に擴大せられて、政府、資本家、及びその手先きの聯合軍となり、今活動期に入らうとしてゐる。それ等の事を考へて、私は此の小さな事件を何時までも忘れ得ない。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

鈴ケ森より

小野君を迎ふ

我々のグループは、新しき一人の同志を得た。それは盲人の身で、所謂共產黨事件に連坐して上海に逃走し、全日本の警察を煙に卷き、ブルヂョアを露倒させた小野兼次郎君である。

酷い仕返しを受けて七ヶ月餘を未決監で過ごし、先月十五日保釋で出獄したが今度我々と衣食を共にする事となつた。

陰鬱な取調の名の下に、七ヶ月有餘を、他の人々よりは二ヶ月も長くブチ込んで置くとは、盲人に逃げられた自己の口惜しさを晴らさうとする、官憲の私怨でなくて何だ

小野君は獄中の無聊を、人一倍感じた事であろう。絶望、懊惱腸に喰ひ入る夜も幾度かあつた事だろう。手を縛され、足を繋がれ、而もその敵手の顔を見る事が出來ぬ。此の心境を誰が相像し得やうか。

小野君の明晰なる頭腦と、熱烈なる情意とは、同志の間に定評がある、夕餐後机を圍む無駄話の中に、君の熱辯は屢々群を抜く。

革命の狂亂に面して一歩々々進みつゝある。此の空前絶後の時代に於て、私等は此の優れたる盲人と手を握る事を得たのを心の奥底から喜ぶ。（竹井）

櫻八茶屋の側

□近松の戯曲に見る鈴ヶ森は面白い。男の中の長兵衛が、『御待なせえ』と呼び留めた櫻八茶屋もすぐ傍だ白刄雨と降る中を飛鳥の如く掻ひ潜つて、一刀兩斷唐竹割、縦横一文字に薙ぎ倒した、當時紅顔の美少年を、相像の一端に上せる時、痛快至極な感じがする。

□早起して袖ヶ浦の渚に立つ、房總の山は遙かに霞んで、水平線上白帆走る。やがて一抹の雲翳が血の色に染まると見る瞬間、赤銅色の太陽が堂々と輝き上る赤色は革命だ、赤色の太陽は革命のシンボルだ。

此の太陽を仰ぐ時、俺の全心肉は歡喜する躍動する。此の一瞬の感激は、今後の俺を永久に支配して、止み難い力と熱の素因となり革命の本道に突貫する偉大なる成果を產むに至るであらう。

□東海道を隼のやうな勢で、まつしぐらに往還した急使のやうな目廻しい生活の内にも、僅かの隙を見出して、俺は時々すぐ近所の首斬塚や磔刑を訪れる。その苔蒸した墓の下には何萬とも數知れぬ死刑囚が眠つている。恐らくその内には、志士仁人や革命家も澤山あつたに違ひない。その人々の胸中の萬斛の恨を忍ぶ時俺はさながら五臓六腑を掻き抓られる思がする。

□されど刑囚や靈あらば、我々がこゝに集つて、靜かに潜むる思が何であるかを知るであらう。そうして彼等幾千人の爲めの、絕大な吊合戰が、如何なる精神と思想とに基いて行はれんとしつゝあるかを知るであらう。（山岸）

發送會計係から

見本雜誌は出來る丈け配る考です。入用の方はドシ／＼申込で下さい。

購讀申込の際、住所氏名は必ず明瞭に書いてくれる事。

折角購讀を申込れても、宛名がわからなくてカードの造られぬ場合も有るやうだから。とくに此の事は御願します。

讀者は雜誌の生命です。私等一同もウント努力するつもりですから。諸君も出來るだけ讀者を紹介して下さい。

交換＝どんな雜誌でも、新聞でも、交換の御希望があれば應じます（勞働團體や思想團體の機關紙は殊も歡迎します）

取次＝地方讀者のため。書籍。パンフレツト。リフレツト。など敏速に取次致します。（安達）

忙しい御飯炊き

『進め』も四月號が出るやうになり、すべての調子が日に／＼熱を加えて來るにつれ、臺所の方も次第に忙しくなりました。同人が十人近くも居る上に、毎日のやうに、三人五人とお客樣が見えますので。併し此の頃は、内の人達もお客樣も皆緊張し切つた方ばかりなので、ほんとうに氣持ちのいゝ日ばかり續きます。御飯たきの忙しさも、ツイ忘れるやうな思ひです。

それに、今度、皆んなが代り合つて一日交代に炊事の手傳をしてくれる事になりましたので、急に荷物が輕くなりました。今ではその當番が、一週間に一度ぐらい廻つて來るのですが、段々同人が增して一ヶ月に一度、二ヶ月に一度、やがて半年に一度など言ふ事になればどうでせう。鈴ヶ森からどのやうな聲が上るでせうか。（あさか）

鈴ケ森吟

×

袖ヶ浦和の秋の暮
漁村の烟薄らぎて
一望霞む安房上總
氷や空なる走りばに
傾く夕日影寒し
磯打つ波も音寒し
渚に獨り佇めば
鵙又寒し鈴ヶ森

×

歌に小唄にうたはれし
牛馬の骨の捨て所ろ
南無妙の碑は妙かに
問へど答へど苔むしや
石の枕の幾世經て
冷かならむ夢の跡
安房と上總を見納めに
眠りし人よ設許ぞ

×

忠を名に呼ぶ丸橋が
君に反きて逆まに
民に盡せし志
こゝに碎けて鬼啾々
もゆる燐火の影ふりつ
三尺高き木も朽ちて
痛ましい哉 亂臣の
名は末代にたれながら

×

吾れも代償の火にもえて
民に忠なる男子なり
斷頭臺下露散りて
涕涙の夢きえむ時
よし、三尺の木は朽ちて
頭をかくろあとなくも
こふ 吾が爲めに三尺の
墓地を分てよ 鈴ヶ森

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

女間牒

岡千代坊述

第三回

牛込余丁町に門構、表札には陸軍少佐山路友照とあります、日清日露の功により勳三等を授けられ、今は休職の身ですが、恩給年金で、裕福に暮して居りますけれども、不幸な事には妻君に先立たれ、老の獨身に人生のまゝならぬことを喞ち、一人娘の生長するのを此上なき樂しみとして居ります、書齋の火鉢を挾んで甥の吾妻巖に何かお談儀をして

山『保證人になつて與れ！夫りやなつてやらぬものでもないが、乃公は、お前を立派な軍人にしてやらふと思つて、幼年校の方へも、夫々頼んで置いたのを、兎や角と云ふて逃出し、噂に聞けば、紡績の職工とやらに入つたと、まア夫も可として、僅經過かたゝぬ中にモーして、其處を失策つて、他に職を求めるやうぢや、何事も成功はせない、轉ぶ石に苔つかぬぢや、乃公も軍曹から、こうした位地を得たのは一心に國家の爲めに奉公せねばならぬと云ふ誠心で身命を抛つたからぢや……勞働の傍ら苦學をすると云ふ事も面白いぢやが仲々うまく行まい、乃公も喃、家内から、お前のことを呉々も頼まれたから、どうか立派な軍人にしてやつて、國家に御奉公するやうにと思ふのぢや、お前もまだ十七か八ぢや、之れからでも遲くはない、軍人を志願なさい、さうすれば、能傳手は、いくらもある、一引き二運と云ふて、幾ら天才的な者でも、引きがなければ昇進は出來ない、乃公の部下で今では相當の地位に進んで居るものは士官學校の方でも、經理學校の方でも、又海軍の方がよければ其方にも傳手はいくらでもある航空隊の方でも、どうぢや、そんな牛乳配達をするより、軍人になれ、軍人になるのは日本男子の本分ぢやないか……』

吾『なんと、お仰つても軍人になる事は嫌です、……假に私が下士から、大尉までになるのは、平和な時代には何年かゝりませうか、夫れが大尉になつた處で、天下を左右する、事は出來ません』

山『なんだ、天下を左右する、ハ、、、お前がそんな到方もない事を考へて居るからぢや、世の中の事は天下の左右どころか一身の左右さへ自由に出來るものぢやない、兎角青年の考へと云ふものは無謀でな、ハ、、』

吾『伯父さん私の考は無謀かも知れませんが、軍國主義もモーお終いだと思ひます……』

山『軍國主義がお終ひとは、そりやどう云ふ譯ぢや』

吾『ハイ、私の考では……イヤ私の崇拜する先生の說を聞くと、之れまでは世界各國とも、貿易は軍旗の下に進むと云ふ理想を以つて、先づ領土を得ることを先きにしたのですが今日ではモー過去の理想です、數萬の犧牲を拂ひ、幾億の國帑を費やして萬一に領土を得ても、其占領地の人民を威服させて經濟的の利益を收めるのは容易でない、彼の愛蘭人が今尙ほ英國に向つて獨立の反旗を飜して居るではありませんか』

山『英國と我國とは、國體が違ふ、我が陛下の御稜威には靡かぬものはない……』

吾『無論國體の違つて居ることは承知して居りますが、世界各國の國家發展の方針が違つた事を申上げるのです軍旗を以つて領土を得るより、能い品物を作つて、それを他國に輸出して、經濟的方面で國家の發展を圖るやうな方針を取り軍備の如き不生産的方面には餘り力を注がぬ傾向になりました』

山『ハ、、矢張り書生論ぢや、お前達は一面ばかりを見て居るのぢや、各國が平和會議などゝ稱して、軍備を縮少せいと云ふのぢやが、その平和の首唱者たる米國が、どうぢや、今や軍事敎育を普及せねばならぬと、盛んに軍備を計畫して居るのぢや我國が將來恐るべき敵は米國ぢや、米國はモンロ主義ぢやなど體裁の能いことを云ふて居るが大の軍國主義ぢや、日米戰爭は避くべからずと云ふ識者がある、が、全く空論ぢやなからふ、夫れには矢張り軍備と云ふものを充實させて置かねば一朝事があつた時には間に合ぬ、日本は皆兵主義ぢやが、餅は餅屋で平常に訓練ある將校、下士が備えてなければ折角の精鋭な軍器も

何にもならぬ、そこで、お前に軍人となつて一朝有事の時には國家の爲めに勳功を樹て呉れと云ふのぢや」吾「伯父さん私は、軍人になるばかりが國家の爲めぢやないと思ひます、正直に勞働をして生産を助けるものは皆な國家の功勞者と思ひます、鐵砲を擔ぐものよりも、肥桶を擔ぐものが寧ろ必要と思ひます」山「それも必要ぢやらうが、之れまで日本をして今日の如く一等國に進めたものは皆な軍人の力ぢや、惡いことは云はぬ、軍人になれ、お前が立派な軍人になり、花枝の聟に立派な軍人を養子にすれば、夫で乃公も安心ぢや」其處へ娘の花枝が周章しく入つて來ました 姫「お父さん號外が出ました」山「フム、號外大事件でも起つたのか」姫「否、飛行機の墜落です」吾「花枝さん飛行機が又た墜落したのですか此節の號外だと云へば、飛行機の墜落に極つて居りますね、こんな墜落するやうな、飛行機で米國と戰爭しやうと云ふ日本軍人の意氣は熾んなものです、米國などでは飛行機は各大學の校庭に遊戯用としてあると云ふのぢやありませんか」花「そんなに彼方では發達して居ますかね」吾「自動車などは、此方の姥頭のやうに大概な家庭に持て居るそうです、何分ガソリンが安いですから……殘念ながら、日本にはそのガソリンが出ませんから、イザ海戰となればガソリンに困ると云ふのぢやありませんか」花「さうですかね、夫れに米國はお金が澤山あるさうです……」吾「金も澤山、器械も精巧なものばかりで、到底日本品などは及びもつきません、飛行機が始終墜落するのは乘手が下手なばかりぢやありません、發動機が惡いのでせう、乾度和製ものでせう、能く外國の絹葉書などを見ますと、塒へ歸る鳥の群が飛んで居るやうですが、日本では偶に飛ぶと直ぐ墜落の號外が出るから心細いぢやありませんか夫れで米國と戰爭しやうと云ふのですが……だが花枝さん日本には有がたいことには天祐と神風がありますから大丈夫でせう」花「妾には、戰爭のことなどは存じませんが、母が妾にさう申して居りました、出征者の家族はどれほど心配なものだか、何時戰死したと云ふ知せが來るか解らないと溢して居たことを能く覺えて居りますよ、まア戰爭などは無い方が可ですわ……」吾「では、花枝さんお父さんの前ですが貴女は軍人は嫌いですか、伯父さんは貴女に軍人の聟さんを養子すると云ふてお出でした」花「妾はそんな事は知ません」吾「花枝さん僕は伯父さんから、軍人になれと云ふお話でしたが、軍人になるより百姓になりたいと思ふて伯父さんにその保證人になつて貰ふやうにお願に來たのです、日本は年々人口が殖えます、その捌口はどうするか、殖民より外に道はないと思ひます、夫れで僕は勞働をした傍に、海外殖民學校へ入つて其處を卒業して南米のブラジルへ行かふと思ふて居ます、ブラジルは世界中の大國です、朝鮮と臺灣を除けば日本の二十二倍半、即ち面積が三億二十一萬八千百三十方哩と云ふのです夫れで人口の密度が、一平方哩に六十四人と云ふ割合ですから極く稀薄です、茫々たる沃野と深林と、珈琲とダイヤモンドとがゴロ〳〵して居るさうです、季候も暑からず、寒からず、日本の五六月頃の氣候ださうです其處には伊太利人が、多いさうですが、日本人もモー一萬人以上も行き居るさうです、何分世界の寶庫と云ふて居るのですから、僕は其處へ行つて王樣になるのです」花「あらまア嚴さん王樣に、大變な氣焔ですね」吾「ハヽ、王樣は嘘ですが、共和國ですから大統領になるのです、さうして南米へ新日本國を建設して、日本人の貧乏を救つてやるのです、猫の額みたやうな島國で食ふだ、食はぬだとか云ふて騷いて居るのは馬鹿らしいのです、花枝さんが男だつたら、是非勸めて南米へ一緒に行くのに惜しいことだ、花枝さん僕は必らず行きます」花「嚴さん、お出になつたらダイヤモンドを、トランクに一杯送つて下さいなオホヽ、」老將軍は號外を受取つて、眼鏡を探して頻りに讀んで居ましたが、忽ち顏色を變へて山「花枝、大變じや、墜落して三田少尉が死んだのだ、あゝ殘念な事をした、三田は將來山路家を相續させやうと思ふて居たのぢや……花枝自働車を呼べ」

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

時計眼鏡
貴金屬装身具
測量製圖器械

玉屋商店

東京銀座三丁目

電話京橋 三〇五 三〇六 三〇〇七 一〇九九

振替口座 東京四四八八

金、銀、白金

德力本店

東京市神田區松田町

大坂

三越呉服店

高麗橋

堺利彦・山川均序・吉田只次著（十版）

貧乏人根絶論

最も平易明快に社會主義の原理を説く

◇定價一圓二十錢
送料八錢

發行所 凡人社
横濱市戸部町二丁目四七
振替東京六〇七三九番

發賣元 進め社

本店新築中

歐米時計類
眼鏡双眼鏡
測量諸器械
プラチナ地金
精工舍時計
ダイヤモンド
紀念盃徽章
寶石指環類
各種裝身具

東京銀座二丁目
服部時計店

假所ニ營業仕候

日本橋區呉服町

帝國生命保險株式會社

電話本局
九五
三三八
一六五七
三三七四

喜谷實母散

産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有

▲全國到る處に販賣す

本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋 五五番 五六番

◇大阪長堀橋◇
高島屋呉服店
◇京都五條……東京中橋◇

◇大阪心齋橋◇
大丸呉服店
◇京都四條……神戸元町◇
◇東京丸の内

契約高　四億二千萬圓

積立金　八千一百餘萬圓

社長　山口吉郎兵衛

日本生命保險株式會社

專務取締役　弘世助太郎

本店　大阪市東區今橋四丁目

支店　東京、大阪、京都、名古屋、仙臺
福岡、金澤、廣島、京城

山川菊榮述

メーデー

メーデーの意義、目的、歴史などを知るに、最も適當なパンフレット。

一部五錢郵税十部まで二錢

多數の注文は强度の割引

するに最も適當なパンフレット。メーデー宣傳の爲め配布

無産社リーフレット

- ▲金持と貧乏人　堺　利彦　・〇二
- ▲婦人問題　山川　菊榮　・〇二
- ▲勞働婦人の解放　山川　菊榮　・〇二
- ▲勞働運動桃太郎　堺　利彦　・〇二
- ▲智識階級に與ふ　山川　均　・〇二
- ▲農村問題　山川　均　・〇二
- ▲農民運動の目標　佐野　學　・〇二
- ▲犬芝居と猿芝居　安成　貞雄　・〇二
- ▲文學青年に與ふ　平林初之輔　・〇二
- ▲特殊民の解放　一特殊民　・〇二
- ▲宗教病者に與ふ　藤井　眞澄　・〇二
- ▲小學教員に與ふ　中曾根源和　・〇二

無産社パンフレット

- ▲社會主義大意　堺　利彦　・一〇
- ▲資本と勞働　堺　利彦　・一〇
- ▲價値價格利潤（近刊）　堺　利彦　・一〇

片山潛著

自傳

定價壹圓八拾錢

送料十五錢　四六判上製

第六版

世界人として堅剛鐵の如き意志と、熱火の如き情熱を以て知らるゝ彼は、露國では大臣を以つて待遇され、極東共産黨及革命黨大會に於ては議長に擧げられ今回亦たウレーナー、スコット等老雄の上に立つて、南北全米の第三インターナショナル總指揮官に推擧された、此の世界人がレーニンと並んで嵐の如く雄飛する颯爽たる英風下にも此の如き涙ににじむ思出がある。

東京芝愛宕下町　振替東京八四〇二

改造社

インターナショナル・パンフレット

1. ロシア革命十一月七日　堺　利彦　・一五
2. 日本社會主義運動史　荒畑　寒村　・三〇
3. 無政府主義と共産主義　西　雅雄　・一〇
4. 共産主義と教育　中曾根源和　・一〇

インターナショナル・リーフレット

1. インターナショナルの話　・〇二
2. ロシアの勞働組合運動　・〇二
3. 團結せよ！組織せよ！　・〇二
4. 青年運動　・〇二
5. 勞働組合と組合員　・〇二

水曜會パンフレット

- ▲牙を拔かれた狼　山川　菊榮　・一〇
- ▲怠惰と社會主義　堺　利彦　・一〇
- ▲タンクの水　山川　均　・一〇
- ▲勞農ロシヤ問答　横田　千之　・一〇
- ▲勞農ロシアの農業制度　山川　菊榮　・一五
- ▲何故社會主義者になつたか　西　雅雄　・一〇
- ▲社會主義の進化　山川　菊榮　・一五
- ▲リープクネヒト　山川　菊榮　・一五
- ▲メーデー（勞働祭）　山川　菊榮　・一〇
- ▲二人の革命家と二人の勞働者　山川　菊榮　・一〇

文化學會パンフレット

- ▲社會主義者になつたら　堺　利彦　・四〇
- ▲ギルド社會主義　森戸　辰男　・四〇
- ▲社會主義とは何ぞや　島中　雄三　・四〇
- ▲レニンの社會學說　淺野　研眞　・四〇
- ▲直接行動論　島中　雄三　・四〇

大正十二年四月一日發行
大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
●每月一回一日發行
●定價　一部十錢　一年一圓
廣告料　一行一圓　一頁三百圓
●發行所　東京府下荏原郡大井町鈴ケ森二四七八（振替東京一二八七四）日本勞働協會
發行人　稲田狂二　編輯人　北原龍雄　印刷人　高野松太郎